Form No. 3372-116 Rev C

TORO®

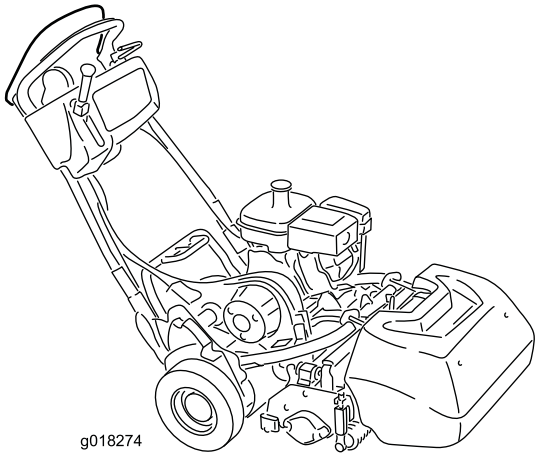
Count on it.

オペレーターズマニュアル

Greensmaster® Flex™ 1800 および 2100 トラクションユニット

モデル番号04040—シリアル番号 312000001 以上

モデル番号04041—シリアル番号 312000001 以上



g018274

製品の登録は：www.Toro.com.
この文書は翻訳です。(JA)

CE

3372-116 C

この製品は、関連するEU規制に適合しています；詳細については、DOC シート（規格適合証明書）をご覧ください。

警告

カリフォルニア州
第65号決議による警告

カリフォルニア州では、この製品に搭載されているエンジンの排気ガスには発癌性や先天性異常の原因となる物質が含まれているとされております。

地域によっては、この機械の使用に当たり、本機のエンジンにスパークアレスタを取り付けることが義務付けられておりますので、この機械のマフラー・アセンブリにはスパークアレスタが内蔵されています。

トロの純正スパークアレスタは、USDA森林局の適合品です。

重要 この製品のエンジンのマフラーにはスパークアレスタが装着されています。カリフォルニア州の森林地帯・潅木地帯・草地などでこの機械を使用する場合には、同州公共資源法第4442章により、正常に機能するスパークアレスタの装着、またはエンジンに対して森林等の火災防止措置をほどこすことが義務づけられています。他の地域においても同様の規制が存在する可能性がありますのでご注意ください。

この製品に使用されているスパーク式着火装置は、カナダの ICES-002 標準に適合しています。

はじめに

この機械はリール式の回転刃を使用する歩行型の芝刈り機であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、集約的で高度な管理を受けているゴルフ場やスポーツ・フィールド、商用目的で使用される芝生に対する刈り込み管理を行うことを主たる目的として製造されております。本機は、雑草地や道路わきの草刈り、農業用地における刈り取りなどを目的とした機械ではありません。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、また適切な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

弊社に直接おたずねをいただく場合： www.Toro.com でもご覧になることができます。 製品・アクセサリに関する情報、代理店についての情報、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマー・サービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。モデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を図1に示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

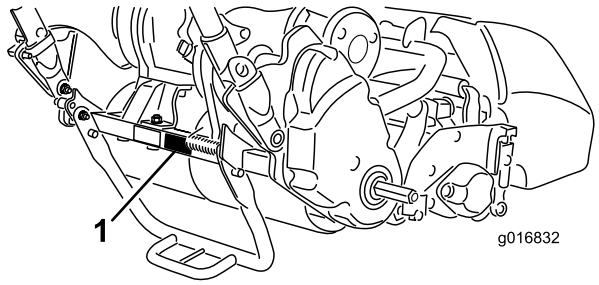


図 1

1. 銘板取り付け位置（トラクションユニット）

モデル番号_____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号図 2を使用しております。死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから必ずお守りください。



図 2

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要**は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

© 2012—The Toro® Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420

連絡先：www.Toro.com.
Printed in the USA.
禁無断転載

目次

はじめに 2
安全について 4
安全な運転のために 4
安全にお使いいただくために： TORO からのお願い 5
音力レベル 6
音圧レベル 6
振動レベル 6
安全ラベルと指示ラベル 7
組み立て 9
1 トラクションユニットにカッティングユニットを取り付ける 10
2 ハンドルリテーナを取り付ける 10
3 移動走行用車輪を取り付ける 11
4 エンジンオイルの量の点検 12
5 集草バスケットを取り付ける 12
製品の概要 13
各部の名称と操作 13
仕様 16
アタッチメントとアクセサリ 17
運転操作 17
安全第一 17
エンジンオイルの量の点検 17
燃料を補給する 17
ハンドルを調整する 18
ハンドルの角度を調整する 18
エンジンの始動と停止 19
移動のための運転 19
芝刈りの準備 19
芝刈り 19
インタロックスイッチの動作を点検する 20
トランスミッションを解除するには 21
ターフの状態に合わせた設定 23
保守 25
推奨される定期整備作業 25
始業点検表 26
エンジンの整備 27
エンジンオイルについて 27
エアクリーナの整備 28
点火プラグの整備 28
燃料系統の整備 29
燃料カップとスクリーンの清掃 29
燃料ラインの交換 30
電気系統の整備 30
走行インタロックスイッチの整備 30
ブレーキインタロックスイッチの整備 30
ブレーキの整備 31
常用／駐車ブレーキの調整 31
ベルトの整備 32
リール駆動ベルトの点検 32
トランスミッションカバーのアクセス穴 32
トランスミッションベルトのテンショナ 32
制御系統の整備 33
走行コントロールの調整 33
リールコントロールの調整 34
保管 35

安全について

この機械は、CEN安全規格EN836: 1997、ISO規格5395: 1990およびANSI規格B71.4-2004に適合する製品として製造されています。

不適切な使い方をしたり手入れを怠ったりすると、人身事故につながります。事故を防止するため、以下に示す安全上の注意や安全注意標識のついている遵守事項は必ずお守りください。⚠これは「注意」、「警告」、「危険」など、人身の安全に関わる注意事項を示しています。これらの注意を怠ると死亡事故などの重大な人身事故が発生することがあります。

安全な運転のために

以下の注意事項はCEN規格EN 836:1997,ISO規格5395:1990 およびANSI規格B71.4-1999から抜粋したものです。

トレーニング

- このマニュアルや関連する機器のマニュアルをよくお読みください。各部の操作方法や本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
- 子供や正しい運転知識のない方には機械を操作させないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 周囲にペットや人、特に子供がいる所では絶対に作業をしないでください。
- 人身事故や器物損壊などについてはオペレータやユーザーが責任を負うものであることを忘れないでください。
- オペレータやユーザーは自分自身や他の安全に責任があり、オペレータやユーザーの注意によって事故を防止することができます。

運転の前に

- 作業には頑丈な靴と長ズボン、および聴覚保護具を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
- 機械にはね飛ばされて危険なものが落ちていないか、作業場所をよく確認しましょう。
- 警告—燃料は引火性が極めて高い。以下の注意を必ず守ってください：
  - 燃料は専用の容器に保管する。
  - 給油は必ず屋外で行い、給油中は禁煙。
  - 給油はエンジンを掛ける前に行う。エンジンの運転中やエンジンが熱い間に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしない。
  - 燃料がこぼれたらエンジンを掛けない。機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
  - 燃料タンクは必ず元通りに戻し、フタはしっかり締める。
- マフラーが破損したら必ず交換してください。
- 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するにはどのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。
- オペレータコントロールやインタロックスイッチなどの安全装置が正しく機能しているか、また安全カバーなどが外れたり壊れたりしていないか点検してください。これらが正しく機能しない時には芝刈り作業を行わないでください。

運転

- 有毒な一酸化炭素ガスが溜まるような閉め切った場所ではエンジンを運転しないでください。
- 作業は日中または十分な照明のもとで行ってください。
- エンジンを掛ける前には、アタッチメントのクラッチをすべて外し、ギアシフトをニュートラルにし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 隠れて見えない穴や障害物に常に警戒を怠らないようにしましょう。
- 道路付近で作業するときや道路を横断するときは通行に注意しましょう。
- 移動走行を行うときはリールの回転を止めてください。
- アタッチメントを使用するときは、排出方向に気を付け、人に向けないようにしてください。また作業中は機械に人を近づけないでください。
- ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のままで運転しないでください。インタロック装置は絶対に取り外さないこと、また、正しく調整してお使いください。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を上げすぎたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故が起こる恐れが大きくなります。
- 運転位置を離れる前に：
  - 平坦な場所に停止する；
  - PTOの接続を解除し、アタッチメントを下降させる；
  - ギアシフトをニュートラルに入れ、駐車ブレーキを掛ける；
  - エンジンを止める。
- 移動走行中や作業を休んでいるときはアタッチメントの駆動を止めてください。
- 次の場合は、アタッチメントの駆動を止め、エンジンを止めてください

- 燃料を補給するとき；
- 集草バスケットを取り外すとき；
- 刈り高を変更するとき。ただし運転位置から遠隔操作で刈り高を変更できる時にはこの限りでありません。
- 詰まりを取り除くとき；
- 機械の点検・清掃・整備作業などを行うとき；
- 異物をはね飛ばしたときや機体に異常な振動を感じたとき；機械に損傷がないか点検し、必要があれば修理を行ってください。点検修理が終わるまでは作業を再開しないでください。

・ エンジンを停止する時にはスロットルを下げておいて下さい。また、燃料バルブの付いている機種では燃料バルブを閉じてください。
・ カッティングユニットに手足を近づけないでください。
・ 旋回するときや道路や歩道を横切るときなどは、減速し周囲に十分な注意を払ってください。刈り込み中以外はリールの回転を止めておいてください。
・ アルコールや薬物を摂取した状態での運転は避けてください。
・ 機械が落雷を受けると最悪の場合死亡事故となります。稲光が見えたり雷が聞こえるような場合には機械を運転しないで安全な場所に避難してください。
・ トレーラやトラックに芝刈り機を積み降ろすときには安全に十分注意してください。
・ 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは安全に十分注意してください。

保守整備と格納保管

・ 常に機械全体の安全を心掛け、また、ボルト、ナット、ネジ類が十分に締まっているかを確認してください。
・ 火花や裸火を使用する屋内で本機を保管する場合は、必ず燃料タンクを空にし、火元から十分離してください。
・ 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
・ 火災防止のため、エンジンやマフラー、バッテリーの周囲に、余分なグリス、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。
・ 集草バスケットは傷や破損が出やすいので、こまめに点検してください。
・ 各部品、特に油圧関連部が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。消耗したり破損した部品やステッカーは安全のため早期に交換してください。
・ 燃料タンクの清掃などが必要になった場合は屋外で作業を行ってください。
・ 機械の調整中に指などを挟まれないように十分注意してください。
・ 整備・調整作業の前には、必ず機械を停止し、カッティングユニットを止め、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、念のために点火プラグからワイヤを抜いてください。また、必ず機械各部の動きが完全に停止したのを確認してから作業に掛かってください。
・ 火災防止のため、カッティングユニットや駆動部、マフラーの周囲に、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。オイルや燃料がこぼれた場合はふきとってください。
・ 機器類を取り外すとき、スプリングなどの力が掛かっている場合があります。取り外しには十分注意してください。
・ 修理を行うときには必ずバッテリーの接続と点火プラグの接続を外しておいてください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。取り付けるときにはプラスケーブルから接続します。
・ リールの点検を行うときには安全に十分注意してください。必ず手袋を着用してください。
・ 可動部に手足を近づけないよう注意してください。エンジンを駆動させたままで調整を行うのは可能な限り避けてください。

安全にお使いいただくために: TORO からのお願い

以下の注意事項はCEN、ISO、ANSI規格には含まれていませんが、Toroの芝刈り機を安全に使用していただくために必ずお守りいただきたい事項です。

この機械は手足を切断したり物をはね飛ばしたりする能力があります。重傷事故や死亡事故を防ぐため、注意事項を厳守してください。

この機械は本来の目的から外れた使用をするとユーザーや周囲の人間に危険な場合があります。

・ エンジンの緊急停止方法に慣れておきましょう。
・ テニスシューズやスニーカーでの作業は避けてください。
・ 安全靴と長ズボンの着用をおすすめします。地域によってはこれらの着用が義務付けられていますのでご注意ください。
・ ガソリンの取り扱いには十分注意してください。こぼれた燃料はふき取ってください。
・ インタロックスイッチは使用前に必ず点検してください。スイッチの故障を発見したら必ず修理してから使用してください。
・ エンジン始動時や芝刈り作業時には必ず正規の運転位置であるハンドルの後ろに立ってください。
・ 運転には十分な注意が必要です。転倒や暴走事故を防止するために以下の点にご注意ください：

- サンドトラップや溝・小川などに近づかないこと。
- 急旋回時や斜面での旋回時は必ず減速すること。急停止や急発進をしないでください。
- 道路横断時の安全に注意。常に道を譲る心掛けを。

- 刈り込み作業中の安全を確保するため、カッティングユニットには、必ず集草バスケットを取り付けてください。また、溜まった刈りカスを捨てる時は必ずエンジンを停止させてください。
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体、マフラー、排気管などに触れると火傷の危険がありますから手を触れないでください。
- 人や動物が突然目の前に現れたら、直ちにリール停止。注意力の分散、アップダウン、リールから飛びだす異物など思わぬ危険があります。周囲に人がいなくなるまでは作業を再開しないこと。

保守整備と格納保管

- 燃料ラインにゆるみや磨耗がないか定期的に点検してください。必要に応じて締め付けや修理交換してください。
- エンジンを回転させながら調整を行わなければならない時は、手足や頭や衣服をカッティングユニットや可動部に近づけないように十分ご注意ください。また、無用の人間を近づけないようにしてください。
- Toro正規代理店でタコメータによるエンジン回転数検査を受け、安全性と精度を確認しておきましょう。この機械の最大エンジン速度は3190-3340 RPMです。
- 大がかりな修理が必要になった時、補助が必要な時Toro 正規代理店にご相談ください。
- 交換部品やアクセサリはToro純正品をお求めください。他社の部品やアクセサリを御使用になると製品保証を受けられなくなる場合があります。

音力レベル

- **モデル 04040：**

  この機械は、音力レベルが 96 dBA であることが確認されています； ただしこの数値には不確定値（K）1 dBA が含まれています。

  音力レベルの確認は、EC規則 11094 に定める手順に則って実施されています。

- **モデル 04041：**

  この機械は、音力レベルが 95 dBA であることが確認されています； ただしこの数値には不確定値（K）1 dBA が含まれています。

  音力レベルの確認は、EC規則 11094 に定める手順に則って実施されています。

音圧レベル

- **モデル 04040：**

  この機械は、オペレータの耳の位置における音圧レベルが 84 dBA であることが確認されています； ただしこの数値には不確定値（K）1 dBA が含まれています。

  音圧レベルの確認は、EC規則 836 に定める手順に則って実施されています。

- **モデル 04041：**

  この機械は、オペレータの耳の位置における音圧レベルが 87 dBA であることが確認されています； ただしこの数値には不確定値（K）1 dBA が含まれています。

  音圧レベルの確認は、EC規則 836 に定める手順に則って実施されています。

振動レベル

腕および手

- **モデル 04040：**

  右手の振動レベルの実測値 = 2.86 m/s^2

  左手の振動レベルの実測値 = 3.24 m/s^2

  不確定値（K） = 1.6 m/s^2

- **モデル 04041：**

  右手の振動レベルの実測値 = 3.16 m/s^2

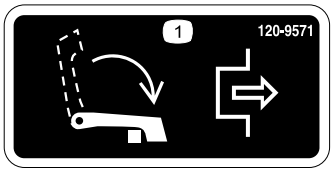
  左手の振動レベルの実測値 = 2.73 m/s^2

  不確定値（K） = 1.6 m/s^2

実測は、EC規則 836 に定める手順に則って実施されています。

安全ラベルと指示ラベル

以下のラベルや指示は危険な個所の見やすい部分に貼付してあります。読めなくなったものは必ず新しいものに貼り替えてください。



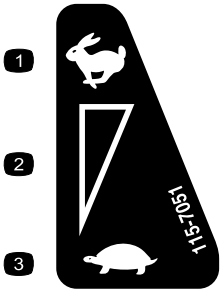
120-9571

1. 走行を停止するにはレバーを下げる



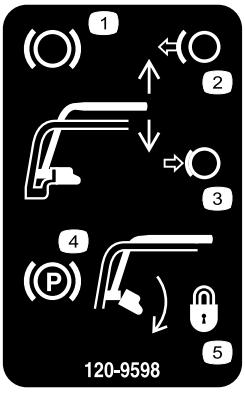
120-9570

1. 警告: 可動部に近づかないこと; 全部のガード類を正しく取り付けて運転すること。



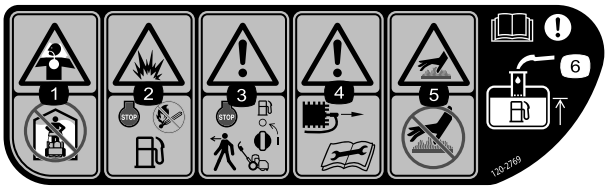
115-7051

1. 高速
2. 無段階速度調整
3. 低速



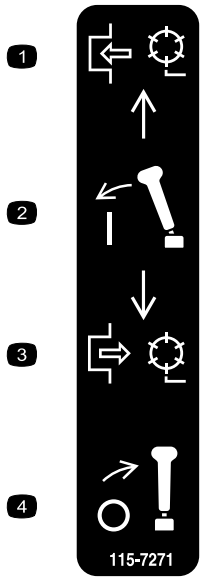
120-9598

1. ブレーキ
2. ブレーキを解除するにはハンドルから手を離す。
3. ハンドルを握りこむとブレーキがかかる。
4. 駐車ブレーキ
5. ラッチを回すと駐車ブレーキがロックされる;ラッチを回すにはハンドルを握り込む。



120-2769

1. 有毒ガスを吸い込む危険: 閉めきった屋内で充電しないこと。
2. 爆発の危険: 燃料を補給する時にはエンジンを停止し、火気を近づけないこと。
3. 警告: 燃料補給時や機体のそばを離れるときはエンジンを停止し、燃料バルブをOFFにすること。
4. 警告:保守整備作業前には点火プラグのコードを外し、マニュアルを読むこと。
5. 表面が熱い・火傷の危険: さわらないこと。
6. 警告:*オペレーターズマニュアル*を読むこと: 燃料は、燃料タンクの給油チューブの根元以上に入れないこと。



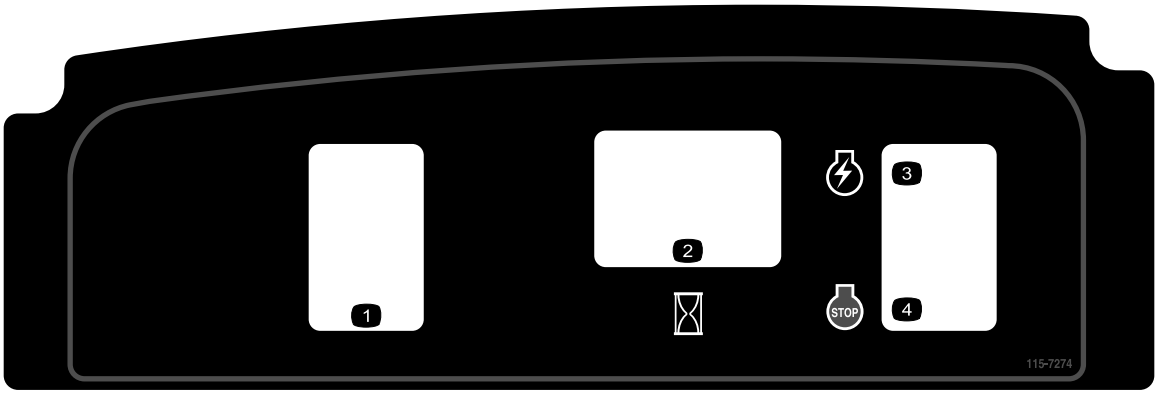
115-7271

1. リール回転
2. レバー入.
3. リール回転停止.
4. レバー切



120-9593

1. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。
2. 警告: 適切な講習を受けてから運転すること。
3. 異物が飛び出す危険 ー 人を近づけないこと
4. 警告: 可動部に近づかないこと; 全部のガード類を正しく取り付けて運転すること。
5. マシンを牽引しないこと。



115-7274

1. ライト(オプション)
2. アワーメータ
3. エンジン: 始動
4. エンジン: 停止

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	ボルト, 3/8 x 3/4 インチ	2	トラクションユニットにカッティングユニットを取り付けます。
2	ハンドルリテーナ ヘアピンコッター	2 2	ハンドルリテーナを取り付ける
3	移動用タイヤ（オプション：移動用車輪キット；モデル04123）	2	移動用タイヤを取り付けます。
4	必要なパーツはありません。	–	エンジンオイルの量を点検する
5	集草バスケット	1	集草バスケットを取り付ける

その他の付属品

内容	数量	用途
オペレーターズマニュアル	1	ご使用前にお読み（ご覧）ください。
エンジンマニュアル	1	
パーツカタログ	1	
オペレータのためのトレーニング資料	1	
認証証明書	1	

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

1

トラクションユニットにカッティングユニットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

2	ボルト, 3/8 x 3/4 インチ

手順

1. 平らな場所で走行ドラムを接地させて駐車する。
2. キックスタンドを下げ、ロッキングピンを差し込んでキックスタンドを整備位置に固定する（図 3）。ロッキングピンで機体を支える。

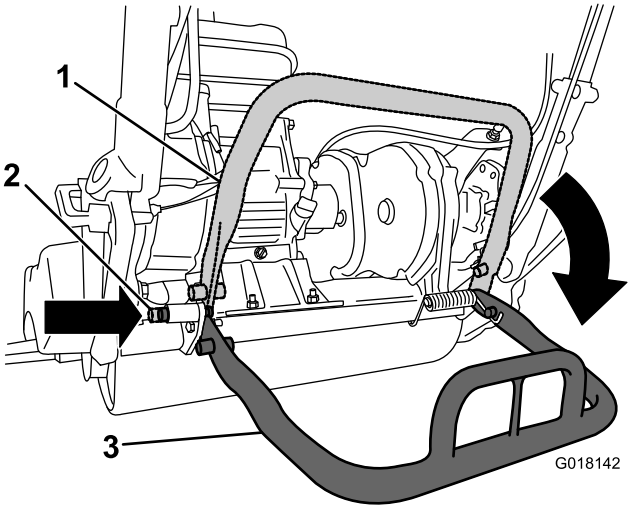


図 3

1. キックスタンド: 格納位置
2. ロッキングピン
3. キックスタンド: 整備位置

3. カッティングユニットをトラクションユニットの下に押し込み、次に左に押してトランスミッションのカップリングに接続する（図 4）。

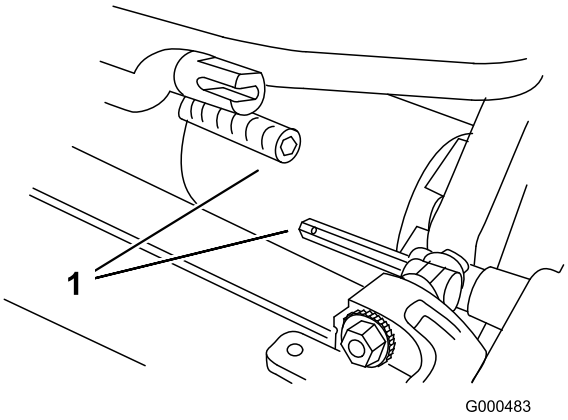


図 4

1. トランスミッションのカップリング

4. トラクションユニットのフレーム（図 5）を前方に引き出してカッティングユニットのピボットアームに接続する。

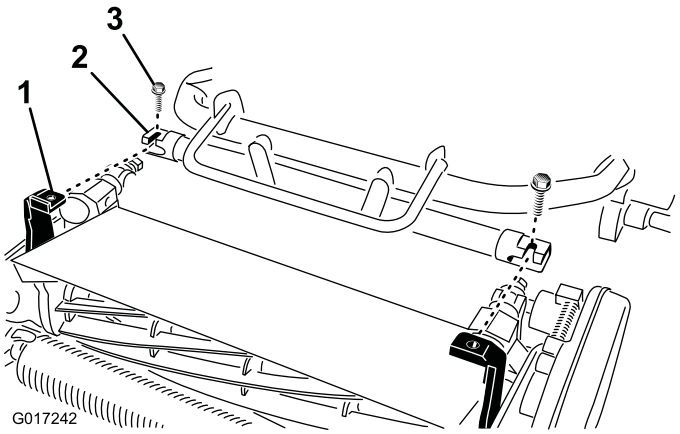


図 5

1. カッティングユニットのピボット・アーム
2. 走行ユニットのフレーム
3. ボルト

5. トラクションユニットのフレームをカッティングユニットのピボットアームに固定する；3/8 x 3/4 インチのボルト（2本）を使用する（図 5）。

   注 カッティングユニットを外すには、3/8 x 3/4 インチのボルト（2本）を1.5回転ほどゆるめればピボットアームから外すことができます。

6. キックスタンドを押し下げてロッキングピンを外す（バネの力でキックスタンドが収納位置に戻る）。

2

ハンドルリテーナを取り付ける

この作業に必要なパーツ

2	ハンドルリテーナ
2	ヘアピンコッター

手順

1. ハンドルを支えながら、ハンドルクランプをサイドプレートに固定しているケーブルタイを外す（図 6）。

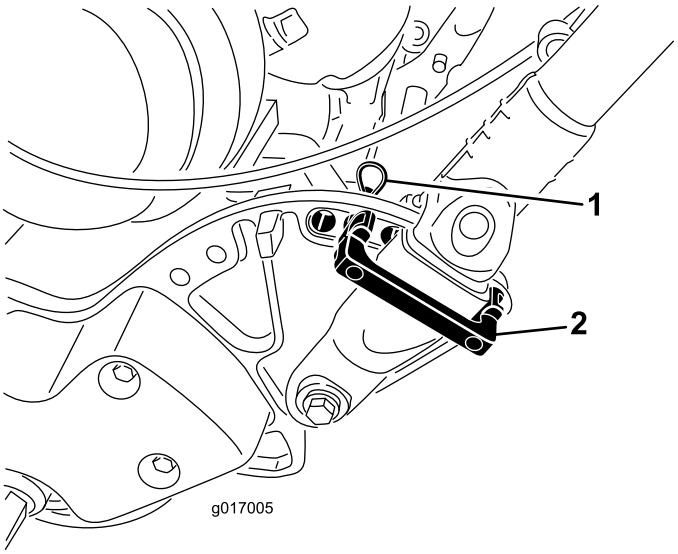


図 6

1. ヘアピンコッター　　2. ハンドルリテーナ

2. 希望する高さ位置にハンドルをセットし、ハンドルクランプの上からハンドルリテーナを差し込んでサイドプレートの穴に通す（図 6）。
3. ヘアピンコッターでクランプを固定する（図 6）。
4. 同様の方法でハンドルの反対側でも作業を行う。
5. ハンドルの高さを調整する：ハンドルを調整する (ページ 18) を参照。

注 出荷時には、ハンドルを一番低い位置にセットしてあります。通常は、ハンドルを一番高い位置まで引き出して使用します。

3

移動走行用車輪を取り付ける

この作業に必要なパーツ

2	移動用タイヤ（オプション：移動用車輪キット；モデル 04123）

手順

1. キックスタンドを立てる（**（キックスタンドの中央部に足を置き**、機体の下部についているハンドルで機体を持ち上げると、スタンドの上に機体が載る（図 7）。

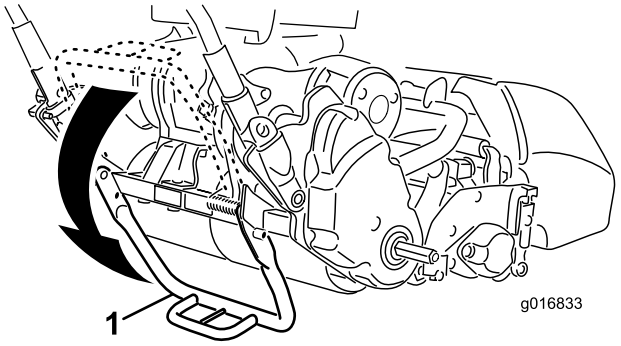


図 7

1. キックスタンド

2. 車輪についているロッククリップが車軸に掛かるようにして車輪を六角シャフトに通す（図 8）。

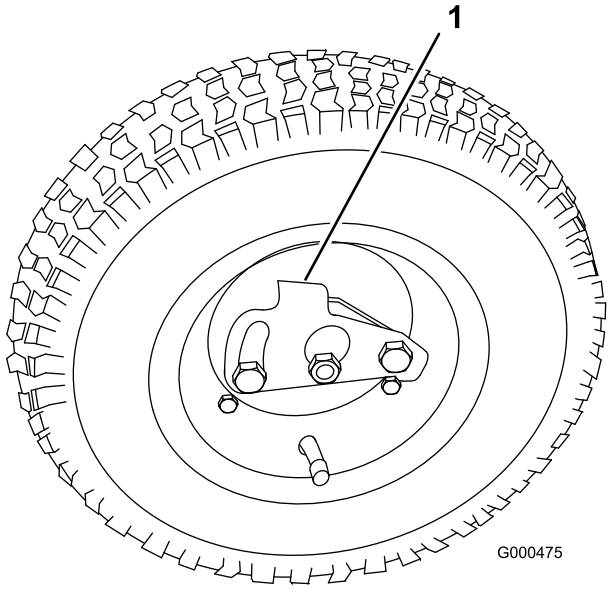


図 8

1. ロッククリップ

3. 車輪を前後に回転させながら車軸の奥まで押し込み、ロッククリップを溝に嵌めて固定する。
4. 機体の反対側のタイヤについても同じ作業を行う。
5. タイヤに空気を入れる（タイヤ空気圧： 12-15 psi; 83-103 kPa; 0.84-1.05 kg/cm2）
6. キックスタンドから、注意深く機体を床に下ろす（機体を前方へ押すか、機体下部についているハンドルを持ち上げてスタンドを収納位置に跳ね上げるかする）。

4

エンジンオイルの量の点検

必要なパーツはありません。

手順

エンジンオイルの量を点検する； エンジンオイルの量の点検（ページ 17)を参照。

5

集草バスケットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	集草バスケット

手順

1. バスケットのハンドルをつかむ（図 9）。

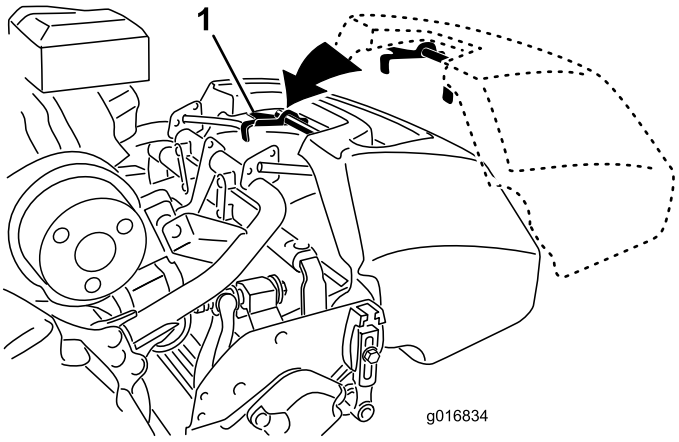


図 9

1. バスケットフック

2. バスケットのリップ部をカッティングユニットの左右のサイドプレートの中央部に合わせて前ローラの上にセットする（図 9）。
3. フレームループの上からバスケットを取り付ける（図 9）。

重要 もしバスケットを落としてしまった場合には、バスケットの下側リップにあるピッチアームの接触点（図 10）が破損していないか点検してください。曲がっている場合には真っ直ぐに直してから使用してください。ピッチアームが曲がったままの状態でバスケットを使用するとリールを破損させる恐れがあります。

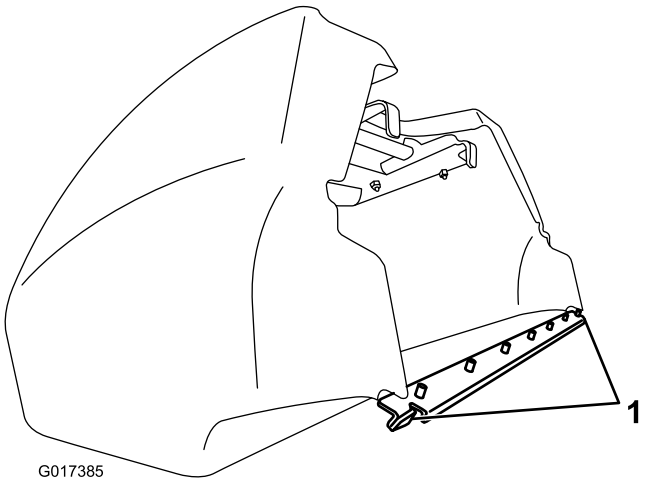


図 10

1. ピッチアームの接触ポイント

製品の概要

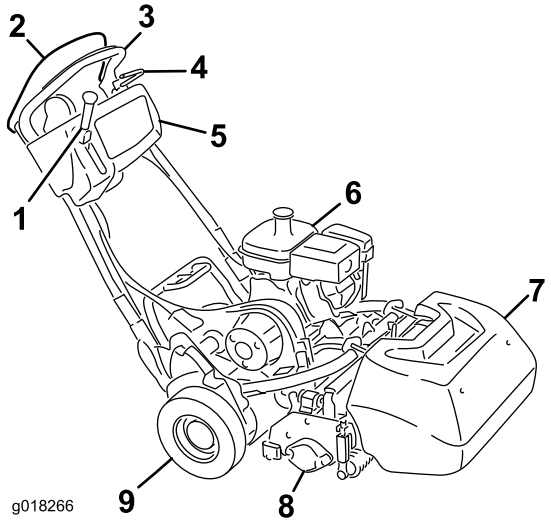


図 11

1. 走行＆リール制御レバー
2. オペレータコントロール
3. ハンドル
4. 常用ブレーキ
5. コントロールパネル
6. 燃料タンク
7. 集草バスケット
8. カッティングユニット
9. 移動用タイヤ

各部の名称と操作

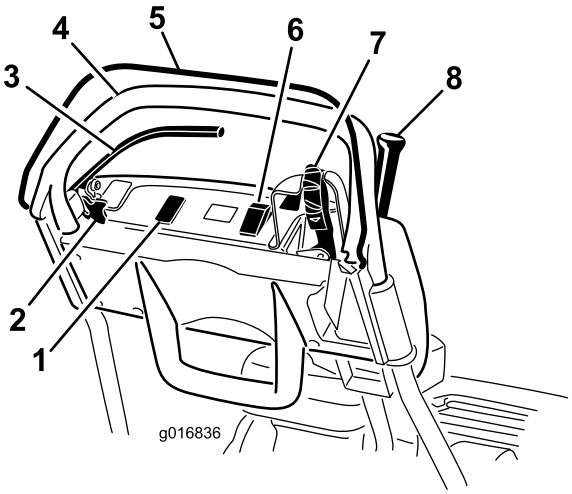


図 12

1. ライト(オプション)用のスペース
2. 駐車ブレーキのラッチ
3. 常用ブレーキ
4. ハンドル
5. オペレータコントロール
6. On/Off スイッチ
7. スロットル・コントロール
8. 走行＆リール制御レバー

スロットルコントロール

速度コントロール（図 12と図 13）はコントロールパネルの右後側にあります。スロットルを回すとエンジンの速度を調整することができます。レバーはキャブレターのスロットルリンクに接続されてそれを制御します。エンジンの回転は1565±100 rpmから3265 ±75 rpmの間で調整することができます。

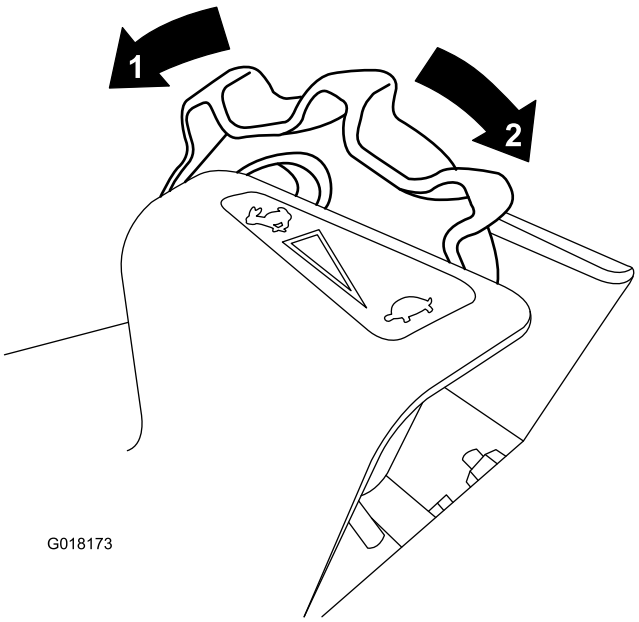


図 13

1. 最高速度
2. 低速

走行＆リール制御レバー

走行＆リール制御レバー（図 14）はコントロールパネル右前側にあります。走行用には2つのレバーポジションがあります： ニュートラルと前進です。レバーを前に倒すと前進します。

注 レバーを操作するには、まずオペレータ・プレゼンス・コントロールが握りこまれている必要があります。

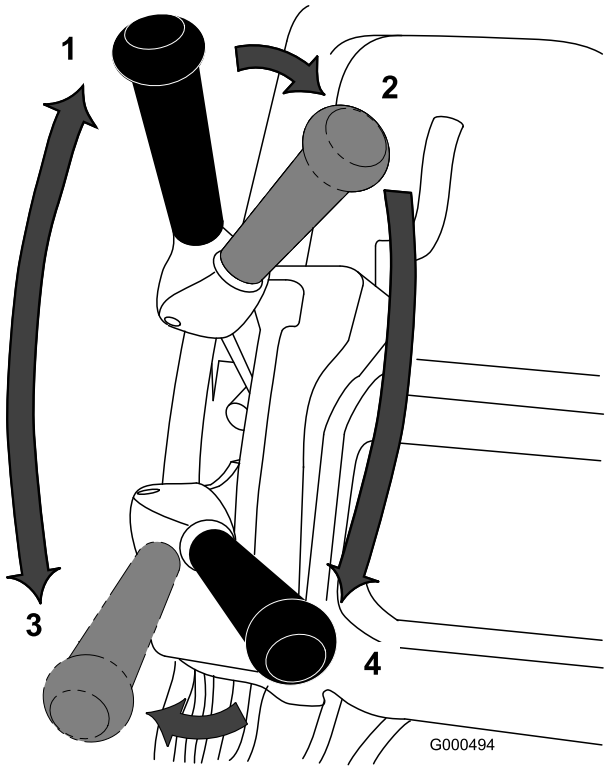


図 14

1. ニュートラル
2. 走行＝ニュートラル;リール ＝ OFF
3. 走行＝ ON(移動走行)
4. 走行＝ ON ;リール＝ ON

リール制御用にも2つのポジションがあります：接続（回転）と解除（回転停止）です。レバー上部を左に動かし、次に前へ倒すとリールが回転を開始して刈り込み状態となりmす。レバーを右に動かすとリールの回転は止まりますが、前進走行は継続します；レバーを手前に引くとリール回転と走行の両方が停止します。

注 運転中にOPCから手を離すと、走行レバーはニュートラルに戻りますが、マシン自体は停止しません。

常用ブレーキ

常用ブレーキ（図 15）は、コントロールパネルの左前側にあります。レバーを手前に引くとブレーキが掛かります。走行するときには必ずブレーキを解除してください。

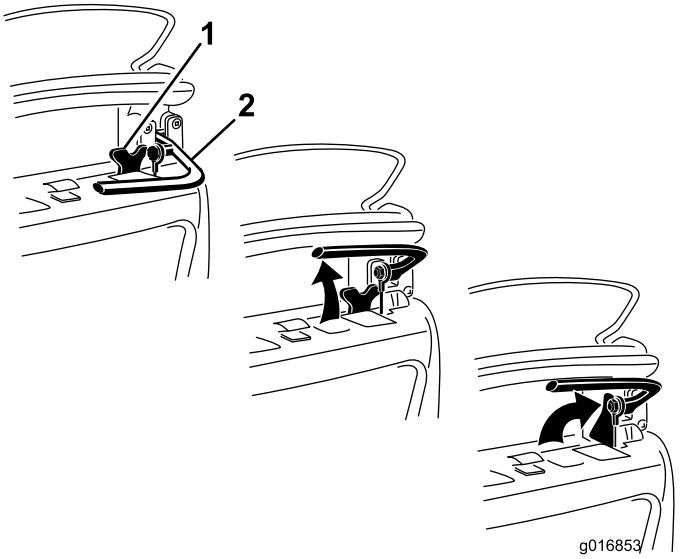


図 15

1. 駐車ブレーキのラッチ
2. 常用ブレーキ

駐車ブレーキのラッチ

駐車ブレーキのラッチ（図 15）は常用ブレーキと併用します。常用ブレーキを掛けた状態で、駐車ブレーキラッチをブレーキハンドル側に回し、常用ブレーキをラッチに掛けて解放すると常用ブレーキ ラッチをブレーキハンドル側に回すと駐車ブレーキがロックされます。ブレーキレバーを引くと解除されます。

On/Off スイッチ

ON/OFF スイッチ（図 12）はコントロールパネルの上部にあります。エンジン始動時にはON位置にとし、停止する時にはOFF位置にします。

オペレータ(プレゼンス)コントロール(OPC)

走行レバーを入れる前に、このオペレータコントロール（図 12）を「入」にしておく必要があります。運転中にオペレータコントロールを解除すると、マシンはニュートラルに戻ります（エンジンは停止しません）。

チョークレバー

チョークレバー（図 16）は、エンジンについています。通常運転（Run）位置とチョーク（Choke)位置があります。エンジンが冷えている場合はチョークを半開きにします。始動後はRun位置とします。

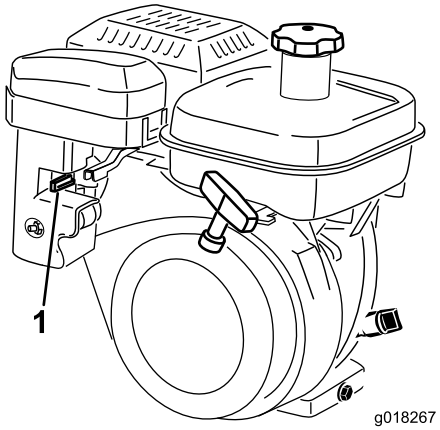


図 16

1. チョークレバー（チョーク位置）

燃料バルブ

燃料バルブ（図 17）はエンジンについています。閉位置と開位置があります。機体運搬時や格納時には閉位置とします。エンジンを始動する前にOPEN位置としてください。燃料カップは燃料バルブの下についています。

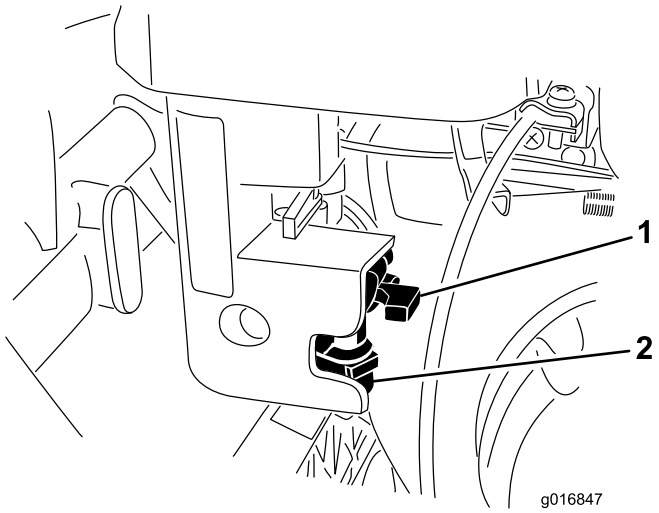


図 17

1. 燃料バルブ（閉じた位置）　2. 燃料カップ

リコイルスタータ

このスタータ（図 18）を引くとエンジンが始動します。

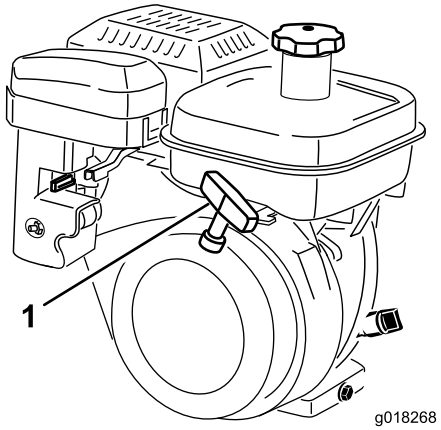


図 18

1. リコイルスタータ

キックスタンド

キックスタンド（図 20）は機体後部にあり、移動用タイヤの着脱作業時に機体後部を浮かせるのに使用するほか、カッティングユニットを取り外す際にマシンが後ろに倒れないように支持します。

- 移動走行タイヤの着脱のためにキックスタンドを操作するには、スタンドを床面まで下げ、ループを足で踏みつけた状態のままで、機体下部についているハンドルを持ってマシンを後方に引いてください（図 19）。

  重要 キックスタンドに載せた足はしっかりと真下方向に踏ん張り、また機体中央下部についているハンドルだけを使って機体を引いてください。この方法以外のやり方で機体を持ち上げようとするとけがをする恐れがあります。

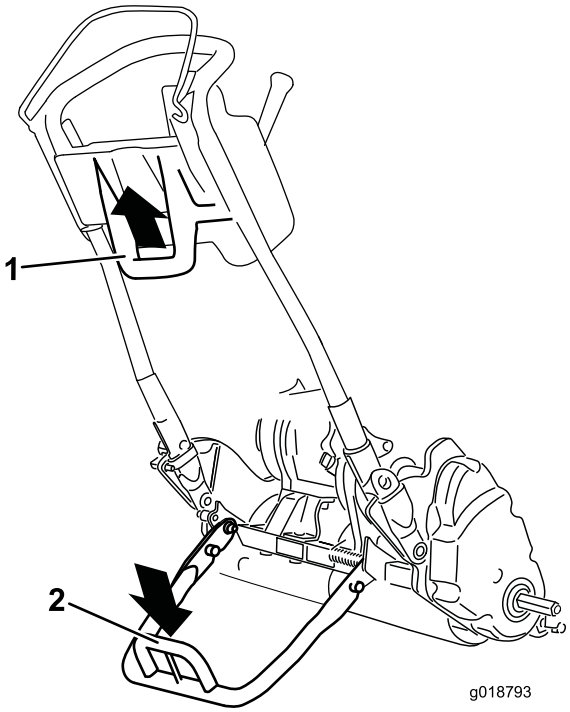


図 19

1. 機体中央下部についているハンドル
2. キックスタンドのループ

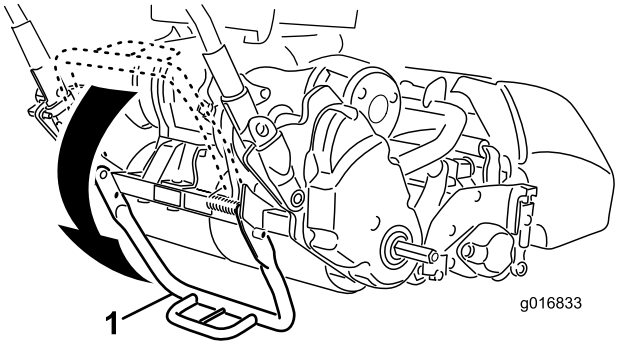


図 20

1. キックスタンド
2. キックスタンドのループ

- リールを外している間にユニットが倒れないように、キックスタンドを下げて、ロッキングピンを差し込んでキックスタンドを整備位置にロックします（図 21）。

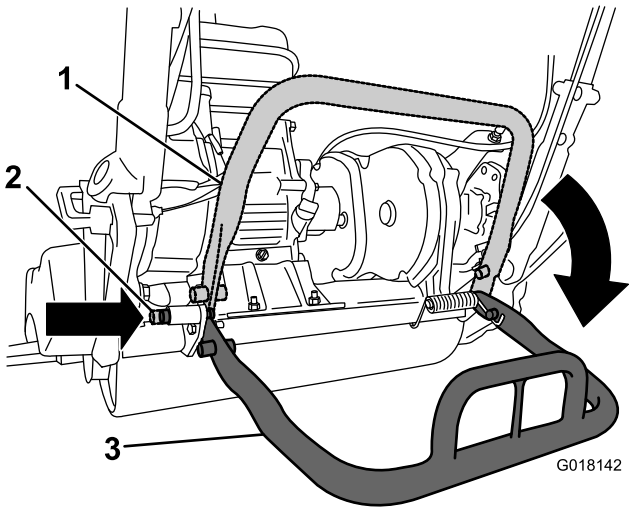


図 21

1. キックスタンド：格納位置
2. ロッキングピン
3. キックスタンド：整備位置

仕様

1800 のトラクションユニット

幅	82.5 cm
高さ	104.8 cm
全長（集草バスケットを含む）	152.4 cm
純重量（11 枚刃カッティングユニットと集草バスケットを装着した状態で）	117 kg
刈幅	457mm
刈高	1.5～7.5 mm（マイクロカット・ベッドナイフ使用時）
クリップ周期	調整可能（カッティングユニットのオペレーターズマニュアルを参照）

2100 のトラクションユニット

幅	90.1 cm
高さ	104.8 cm
全長（集草バスケットを含む）	152.4 cm
純重量（11 枚刃カッティングユニットと集草バスケットを装着した状態で）	117.9 kg
刈幅	53.3 cm
刈高	1.5～7.5 mm（マイクロカット・ベッドナイフ使用時）
クリップ周期	調整可能（カッティングユニットのオペレーターズマニュアルを参照）

アタッチメントとアクセサリ

トロが認定した各種のアタッチメントやアクセサリがそろっており、マシンの機能をさらに広げることができます。 詳細は弊社の正規サービスディーラ、または代理店へお問い合わせください。www.Toro.com でもすべての認定アタッチメントとアクセサリをご覧になることができます。

運転操作

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

安全第一

このマニュアルに記載されている安全上の注意やステッカーの表示内容を良く読んでください。オペレータや周囲の人を事故から守る重要な情報が掲載されています。

エンジンオイルの量の点検

使用ごと或いは8運転時間ごとにエンジン・オイルの量を点検してください。「エンジン・オイルの量の点検」を参照。

燃料を補給する

燃料タンク容量は約 2.7　リットルです。

- 機械の性能を最も良く発揮させるために、オクタン価87以上の、きれいで新しい無鉛ガソリンを使ってください（オクタン価評価法は(R+M)/2を採用）。
- エタノール添加ガソリン（10% まで）、MTBE 添加ガソリン（15% まで）を使用することが可能です。
- 但し、エタノール含有率が体積で10%を超える（E15 E85 ガソリンなど）物は**使用しないでください。**これらの燃料を使用した場合には性能が十分に発揮されず、エンジンに損傷が発生する恐れがあり、仮にそのようなトラブルが発生しても製品保証の対象とはなりません。
- メタノールを含有するガソリンは**使用できません**。
- 燃料タンクや保管容器でガソリンを**冬越しさせないでください。** 冬越しさせる場合には必ずスタビライザ（品質安定剤）を添加してください。
- ガソリンに**オイルを混合しないでください**。

⚠ 警告

ガソリンを吸い込むと健康に害がある。また気化した燃料に長期間ふれると身体に重篤な症状や疾病を引き起こす。

- **ガソリン蒸気を長時間吸わないようにする。**
- **ノズルや容器の口に顔を近づけない。**
- **ガソリン蒸気が目や肌に触れないようにする**

⚠ 危険

ガソリンは非常に引火･爆発しやすい物質である。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。

- **燃料補給は必ず屋外で、エンジンが冷えた状態で行う。こぼれたガソリンはふき取る。**
- **燃料タンク一杯に入れないこと。機体を水平な床に置き、プラスチック製のインサートの一番上のフランジと同じ高さまで燃料を入れる。これは、温度が上昇して燃料が膨張してあふれないように空間を確保するためである。**
- **ガソリン取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。**
- **燃料は安全で汚れのない認可された容器に入れ、子供の手の届かない場所で保管する。30 日分以上の買い置きは避ける。**
- **ガソリン容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油する。**
- **車に乗せたままの容器にガソリンを補給しない。車両のカーペットやプラスチック製の床材などが絶縁体となって静電気の逃げ場がなくなるので危険である。**
- **可能であれば、機械を地面に降ろし、車輪を地面に接触させた状態で給油を行う。**
- **機械を車に搭載したままで給油を行わなければいけない場合には大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油する。**
- **大型タンクのノズルから直接給油しなければならない場合には、ノズルを燃料タンクの口に常時接触させた状態で給油を行う。**

1. 燃料キャップ（図 22）の周囲をきれいに拭いてからキャップを外す。無鉛ガソリンをフィルタスクリーンの下まで給油する。入れすぎないこと。

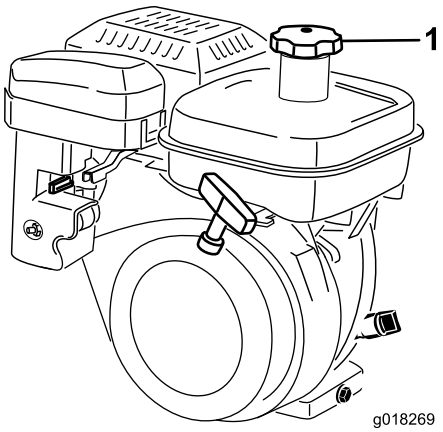


図 22

1. 燃料タンクのキャップ

2. キャップをはめ、こぼれたガソリンは必ず拭き取る。

ハンドルを調整する

注 出荷時には、ハンドルを一番低い位置にセットしてあります。通常は、ハンドルを一番高い位置まで引き出して使用します。

1. ハンドルを左右のハンドルクランプに固定しているキャリッジボルトとナット各3をゆるめる（図 23）。

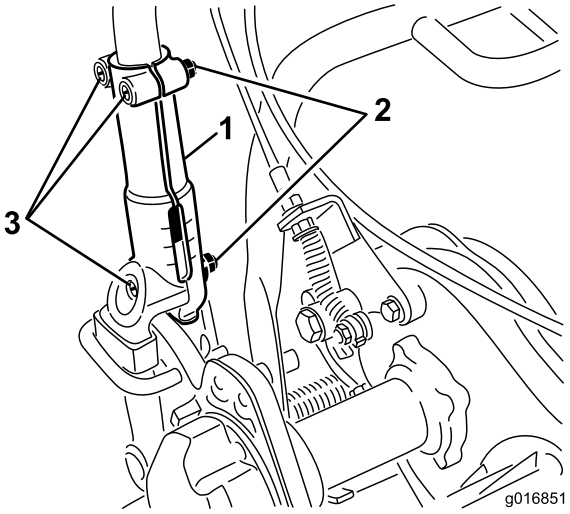


図 23

1. ハンドルクランプ
2. ナット
3. キャリッジボルト

2. ゆっくりとハンドルを左右均等に引き出し、使いやすい高さにする。
3. キャリッジボルトとナットを締めてハンドルを固定する。

ハンドルの角度を調整する

1. 機体左右のハンドルリテーナからヘアピンコッターを抜き取る（図 24）。

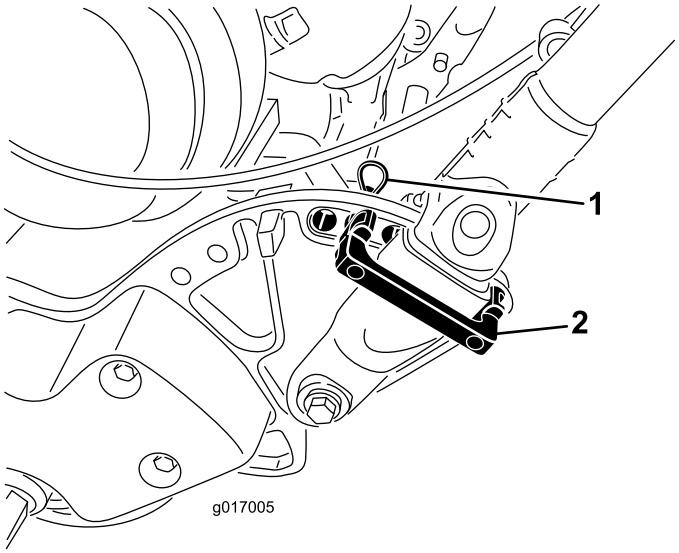


図 24

1. ヘアピンコッター　　2. ハンドルリテーナ

2. ハンドルを支えながら、左右のヘアピンコッターを抜き、ハンドルを希望の位置にセットする（図 24）。
3. ハンドルリテーナとヘアピンコッターを取り付ける。

エンジンの始動と停止

注 操作に必要な各部の名称や位置についてはを「各部の名称とはたらき」の項を参照してください。

エンジンの始動手順

注 点火プラグに高圧ケーブルが取り付けられているのを確認してください。

1. 走行レバーとリール回転レバーが｢解除｣位置にあることを確認する。

   注 走行レバーが｢解除｣位置にないとエンジンは始動できません。
2. ON/OFFスイッチをONとする。
3. スロットルコントロールをFAST位置とする。
4. 燃料バルブを開く。
5. エンジンが冷えている場合はチョークを半開きにする。エンジンが暖まっているときはこの操作は不要。
6. スタータのハンドルをゆっくり引く。抵抗を感じたらそこから力強く引っ張る。エンジンが始動したらウォームアップが進むにつれてチョークを戻す。

   重要 引き出しきったスタータ・ロープを無理に引っ張ったり､引き終わったロープの握りを放さないでください。どちらもロープやスタータ内部の破損の原因となります。

エンジンの停止手順

1. 走行リール制御レバーを｢解除｣位置に､スロットル・コントロールをSLOW位置にして、ON/OFFスイッチをOFFにする。
2. エンジンが停止したら､安全のために点火プラグのコードを抜いておく。
3. 保管時や運送時には燃料バルブを閉じる。

移動のための運転

注 移動用トレーラに載せて搬送中は、芝刈り機のエンジンを停止させておいてください。芝刈り機をいためる恐れがあります。

移動走行用タイヤ（オプション）を取り付けない場合は、ステップ4へ進む。

1. キックスタンドを立てる（スタンドを足で下げながらハンドルを持ち上げる）。
2. 移動用タイヤを取り付ける。
3. タイヤを取り付けたら、ハンドルを持ち、機体を前に押してスタンドをはね上げる。
4. 走行＆リール制御レバーが｢解除｣ 位置にあることを確認し、エンジンを始動する。
5. スロットルをSLOWとし、機体前部を浮かせた状態で徐々に走行位置につなぎ、ゆっくりとエンジン速度を上げる。
6. スロットルで適当な走行速度に調整し、目的地に移動する。

芝刈りの準備

1. 走行レバーを 「解除｣とし､スロットルをSLOWとして､エンジンを一旦停止する。
2. キックスタンドを立てる（スタンドを足で下げながらハンドルを持ち上げる）。
3. 移動用タイヤを取り外す。
4. キックスタンドから、機体を慎重に降ろす。

芝刈り

マシンを適切に使用することが最高の仕上がりを作り出す秘訣です。

重要 芝刈り運転中、刈りカスは潤滑剤の役割を果たします。刈りカスが出ない場所で長時間カッティングユニットを回転させるとカッティングユニットを損傷します。

芝刈り作業の前に

芝刈機の調整に間違いがないか、左右均一に調整されているか確認します。調整不良は仕上がりに

大きく影響しますから十分な注意が必要です。作業場所に落ちている異物を取り除いてください。また作業場所には子供や動物を入れないようにしてください。

芝刈りの方法

グリーンは直線刈りで刈ります。円状や渦巻き状に刈ると芝を傷つける場合がありますから避けてください。ターンをする時はグリーンの外で、リールを浮かせて（ハンドルを押し下げて）行います。芝刈りの速度は普通に歩く速さが適当です。早く歩いてもほとんど時間の節約にはなりません。むしろ仕事が粗くなります。

真っ直ぐに刈るコツの一つは、集草バスケットについている線（図 25）を目安にして、となりの刈り跡と平行に、常に一定の距離をおいて歩くことです。

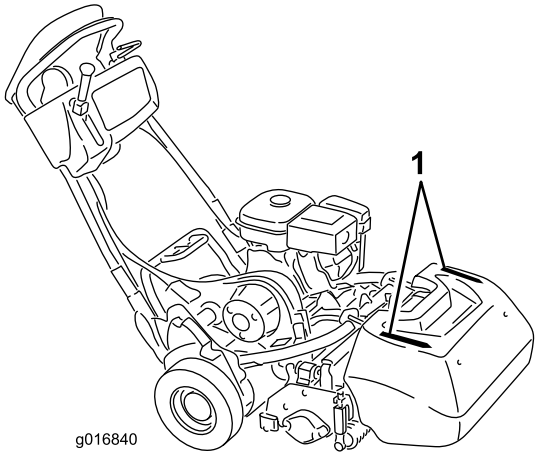


図 25

1. 目印

薄暗い時の運転

薄暗い中で作業を行う場合には、オプションのLEDライト・キット（モデル 04265）のご使用をお奨めします。

重要 エンジンのAC出力系のトラブルを防止するため、これ以外のヘッドライトをご使用にならないでください。

コントロール操作

芝刈り時のコントロール操作は：

1. エンジンを始動、スロットルを下げ、ハンドルを押し下げてカッティングユニットを上げ、オペレータコントロールを握り、走行レバーを「入」にセットして、グリーンのカラー（縁）に入る（図 26）。
2. 走行レバーを解除し、リールレバーを回転側に倒す（図 26）。

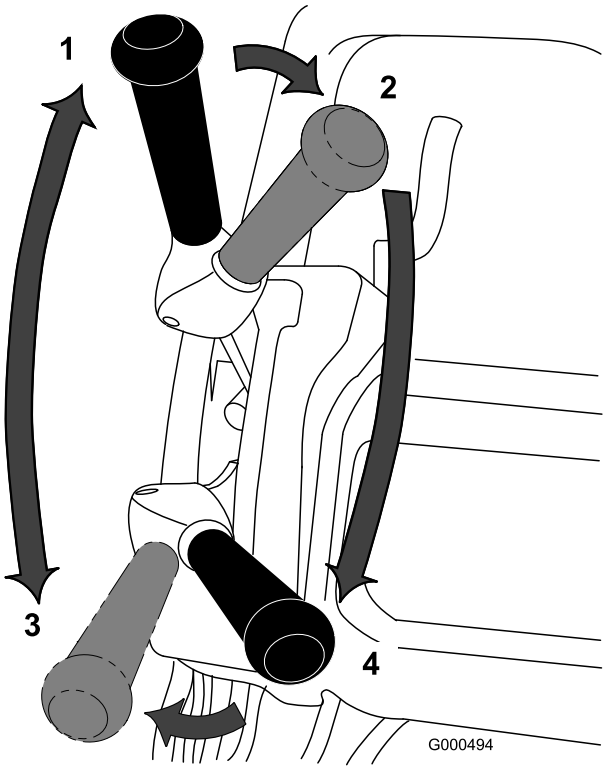


図 26

1. 走行＝ニュートラル
2. 走行＝ニュートラル;リール＝ OFF
3. 走行＝ ON（移動走行）
4. 走行＝ ON ;リール＝ ON

3. 走行レバーを「走行」に入れ、スロットルで希望の走行速度に調整し、グリーン入ってリールを下ろし、刈り込み作業を始める（図 26）。

刈り込みがおわったら

1. グリーンを出てリール回転と走行を停止させ、エンジンを止める。
2. 集草バスケットにたまった刈りかすを捨て、空になった集草バスケットを取り付けて再び作業を開始する。

インタロックスイッチの動作を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

⚠ 注意

インタロックスイッチは安全装置であり、これを取り外すと予期せぬ人身事故が起こり得る。

- **インタロックスイッチをいたずらしない。**
- **作業前にインタロックスイッチの動作を点検し、不具合があれば作業前に交換修理する。**

オペレータ(プレゼンス)コントロール(OPC)のインタロックスイッチ

1. キックスタンドを立てる（スタンドを足で下げながらハンドルを持ち上げる）。
2. エンジンを始動する。
3. OPC を解除した状態で、走行レバーを入れる（図 27）。レバーが入らなければ正常。走行レバーが入るのはインタロックシステムの異常であるから修理する。必ず修理してから使用すること。「インタロックスイッチの整備」を参照。

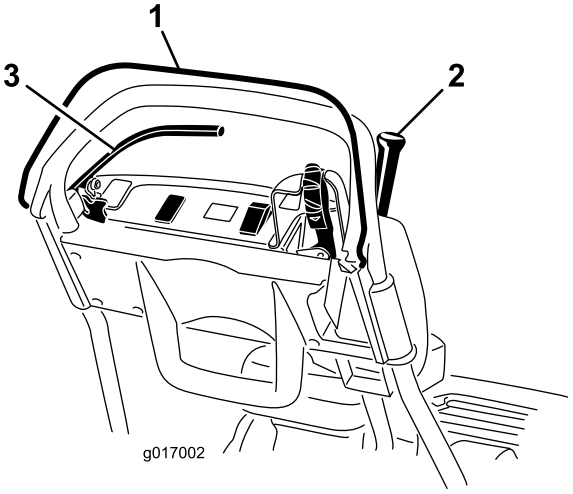


図 27

1. オペレータ(プレゼンス)コントロール(OPC)
2. 走行レバー
3. ブレーキレバー

4. OPC を押し、走行レバーを入れた状態から OPC を解除する（図 27）。走行レバーが外れれば正常。走行レバーが外れないのはインタロックシステムの異常であるから修理する。必ず修理してから使用すること。「インタロックスイッチの調整」または「走行コントロールの調整」を参照。
5. OPC を押し、シフトレバーを左に入れて走行とリール回転を開始し、OPC を解除する（図 27）。走行レバーが外れれば正常。走行レバーが外れないのはインタロックシステムの異常であるから修理する。必ず修理してから使用すること。「インタロックスイッチの調整」または「走行コントロールの調整」または「リールコントロールの調整」を参照。
6. OPC を押し、シフトレバーを左に入れて走行とリール回転を開始し、その状態からシフトレバーを右に操作してリール回転を解除する（図 27）。リール駆動が解除されれば正常。走行レバーが外れないのはインタロックシステムの異常であるから修理する。必ず修理してから使用すること。「リールコントロールの調整」を参照。
7. キックスタンドから、機体を慎重に降ろす。

走行インタロックスイッチ

1. キックスタンドを立てる（スタンドを足で下げながらハンドルを持ち上げる）。
2. OPC を押し、走行レバーを入れた状態とし、エンジンコントロールを始動位置にする（図 27）。エンジンの始動を試みる。始動できなければ正常。エンジンが掛かるのはスイッチの異常であるから修理する。必ず修理してから使用すること。「インタロックスイッチの整備」を参照。
3. キックスタンドから、機体を慎重に降ろす。

ブレーキインタロックスイッチ

1. キックスタンドを立てる（スタンドを足で下げながらハンドルを持ち上げる）。
2. 走行レバーを解除した状態とし、常用ブレーキを掛けた状態とし、エンジンコントロールを始動位置にする（図 27）。エンジンの始動を試みる。エンジンが始動すれば正常。エンジンが掛からないのはスイッチの異常であるから修理する。必ず修理してから使用すること。「インタロックスイッチの整備」を参照。
3. エンジンを始動させ、常用ブレーキ（駐車ブレーキではなく）を掛け、OPC を押した状態から走行レバーを入れる（図 27）。機体が走行しようとするが、エンジンは停止しない。エンジンが停止するのはスイッチの異常であるから直ちに修理する。必ず修理してから使用すること。「インタロックスイッチの整備」を参照。
4. エンジンを始動させ、駐車ブレーキラッチを掛け、OPC を押した状態から走行レバーを入れる（図 27）。エ ンジンが停止すれば正常。エンジンが停止しないのはスイッチの異常であるから修理する。必ず修理してから使用すること。「インタロックスイッチの整備」を参照。
5. キックスタンドから、機体を慎重に降ろす。

トランスミッションを解除するには

万一マシンの自走できなくなった場合には、ドラムとトランスミッションの連結を解除してマシンを手押しで移動させることができます。

1. 機体の右後ろ角部にある走行解除レバーを探し出す（走行ハウジングドラムの隣にある）（図 28）。

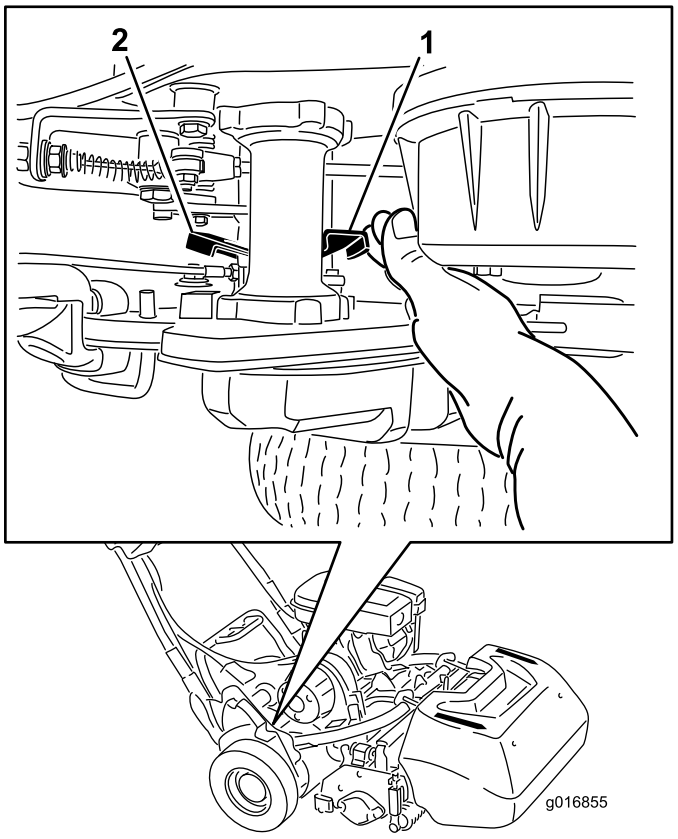


図 28

1. 走行解除レバーが「入」の状態
2. 走行解除レバーが「解除」の状態

2. レバーを後方に回すとトランスミッションとドラムが解除された状態となる。

   重要 スプリングの力でレバーが跳ね返って手に当たるのを避けるために、レバーは前側から押すようにしてください。

3. 必要に応じてマシンを移動させる。

   重要 できればマシンを牽引しないでください。どうしても牽引で移動させなければならない場合でも、移動速度は4.8km/h以下とし、必ずトランスミッションをドラムから解除した状態で移動させてください。これを怠ると、走行系統を損傷する恐れがあります。

4. 必要な移動が終了したら、レバーを前に回してトランスミッションとドラムを連結する。

注 トランスミッションを解除した状態でも、ブレーキは使用可能です。

ターフの状態に合わせた設定

下の表を参考にして、ターフの状態に適した設定を行ってください。

ベッドバー：標準およびオプション（フレックス/e-フレックス 2100）			
パーツ番号	**名称**	**食い込み度**	**参考意見**
106-2468-01	非食い込み仕様	弱い	赤
99-3794-03	きつい	強い	黒、標準
ベッドバー：標準およびオプション（フレックス/e-フレックス 1800）			
110-2282-01	非食い込み仕様	弱い	赤
110-2281-03	きつい	強い	黒、標準

ベッドナイフ：標準およびオプション（フレックス/e-フレックス 2100）			
パーツ番号	**名称**	**刈高調整範囲**	**参考意見**
115-1880	マイクロカット・エッジマックス	1.6-3.2 mm	標準装備
93-4262	マイクロカット	1.6-3.2 mm	
108-4303	先長マイクロカット	1.6-3.2 mm	食い込みを弱くする場合
115-1881	トーナメント・エッジマックス	3.2-6.4 mm	
93-4263	トーナメント	3.2-6.4 mm	
108-4302	先長トーナメント	3.2-6.4 mm	食い込みを弱くする場合
93-4264	ロー・カット	6.4 mm 以上	
ベッドナイフ：標準およびオプション（フレックス/e-フレックス 1800）			
117-1530	マイクロカット・エッジマックス	1.6-3.2 mm	標準装備
98-7261	マイクロカット	1.6-3.2 mm	
110-2300	先長マイクロカット	1.6-3.2 mm	食い込みを弱くする場合
98-7260	トーナメント	3.2-6.4 mm	
117-1532	トーナメント・エッジマックス	3.2- 6.4 mm	
110-2301	ローカット	6.4 mm 以上	

ローラ(フレックス/e-フレックス 2100)			
パーツ番号	**名称**	**直径と素材**	**参考意見**
04255	細溝付き	2.5 インチ(6.4 cm)/アルミニウム	
04256	広溝付き	2.5 インチ(6.4 cm)/アルミニウム	沈み込みが大きくなる
04257	フルローラ	2.5インチ(6.4 mm)/スチール	沈み込みが一番少ない
04258	細溝付き(長尺)	2.5 インチ(6.4 cm)/アルミニウム	左右エッジの支え力が大きい;4.3 cm 長い
115-7356	後ローラ	2.0 インチ(5.1 cm)/アルミニウム	標準後ローラ
120-9595	後ローラ	2.0インチ(5.1 cm)/スチール	スチール, 後
ローラ(フレックス/e-フレックス 1800)			
120-9607	細溝付き	2.5 インチ(6.4 cm)/アルミニウム	
120-9609	広溝付き	2.5 インチ(6.4 cm)/アルミニウム	沈み込みが大きくなる
120-9611	フルローラ	2.5インチ(6.4 mm)/スチール	沈み込みが一番少ない
121-4681	細溝付き(長尺)	2.5 インチ(6.4 cm)/アルミニウム	左右エッジの支え力が大きい;4.3 cm 長い
120-9605	後ローラ	2.0 インチ(5.1 cm)/アルミニウム	標準後ローラ

保守

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

重要 トランスプロ 80 に載せた状態で整備する場合には、必ず、トレーラについているストップを使用して機体を固定してください。機体が倒れると燃料がこぼれる可能性があります。

レールランプ・キットについているストップは、ホイールの後ろについている穴にブルームハンドルなどを差し込む必要があります。

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 20 時間	· エンジンオイルの交換してください。 · 燃料カップとスクリーンを清掃する。
使用するごとまたは毎日	· インタロック・スイッチの動作を点検します。 · エンジンオイルの量を点検する。 · オペレータコントロール（OPC）のインタロックの動作を確認する
50運転時間ごと	· エンジンオイルの交換してください。 · エアクリーナを清掃します（ほこりのひどい場所で使用する場合は、より頻繁に手入れを行ってください）。
100運転時間ごと	· エアクリーナは交換します（ほこりのひどい場所で使用する場合は、頻繁に手入れを行ってください）。 · 点火プラグを点検する。 · 燃料カップとスクリーンを清掃する。
500運転時間ごと	· キャブレターを清掃する · 吸気バルブと排気バルブを点検する。必要に応じて調整する。
1000運転時間ごと	· 燃料ラインを交換する · リール駆動ベルトを点検する · トランスミッションのベアリングを点検する 必要に応じて交換する
長期保管前	· 機体の塗装がはげていればタッチアップ修理をする。

重要 エンジンの整備に関しての詳細は、付属のエンジンマニュアルを参照のこと。

始業点検表

重要 このページをコピーして使ってください。

点検項目	第 週						
	月	火	水	木	金	土	日
インタロックの動作							
駐車ブレーキの動作							
ピボットジョイントの動作確認							
燃料残量							
エンジンオイルの量を点検する。							
エアフィルタの汚れ							
冷却フィンの汚れ							
エンジンからの異常音							
運転操作時の異常音							
リールとベッドナイフの摺り合わせ							
刈高							
塗装傷のタッチアップ修理を行う。							

要注意個所の記録		
点検担当者名:		
内容	日付	記事

エンジンの整備

エンジンオイルについて

エンジンに必要なオイルの量は約 600 ccです（適切な粘度のオイルを使用してください）。オイルは、API（米国石油協会）の SE またはそれ以上のグレードの高品質オイルを使用します。オイルの粘度 - 重量 - 外気温度に応じて選択する。図 29図に、外気温と粘度の関係を示します。

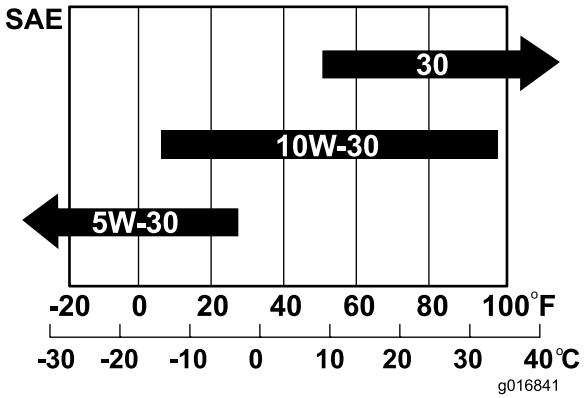


図 29

注 マルチグレードオイル（5W-20, 10W-30, 10W-40）を使用する場合は、消耗が早くなります。オイル量を頻繁に点検してください。

エンジン･オイルの量の点検

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

注 エンジンオイルを点検する最もよいタイミングは、その日の仕事を始める直前、エンジンがまだ冷えているうちです。既にエンジンを始動してしまった場合には、一旦エンジンを停止し、オイルが戻ってくるまで約 10 分間程度待ってください。油量を点検し、ディップスティックの L マーク以下であれば H マークまで補給します。入れすぎないでください。油量が H マークと L マークの間であれば補給の必要はありません。

1. 移動用タイヤ（がついている場合には）取り外す。
2. エンジンが水平になるように駐車し、オイルゲージの周囲をきれいに拭く図 30）。

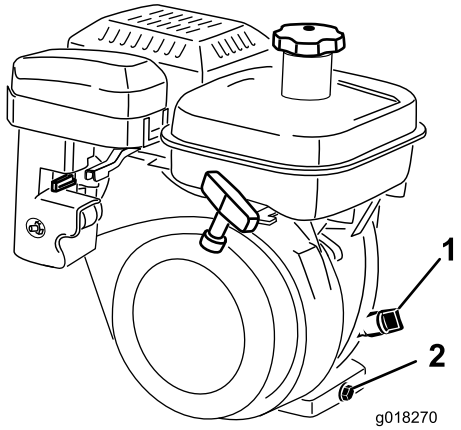


図 30

1. オイルゲージ　　2. ドレンプラグ

3. ゲージを左に回して抜きとる（図 30）。
4. ゲージをウェスできれいに拭き、もう一度差し込む。ゲージはねじ込まずに差し込む。ディップスティックをもう一度抜きとって、オイルの量を点検する。不足であれば、ゲージの H と L の中間位置になるまで補給する（図 30）。油量を確認する。入れすぎないこと。

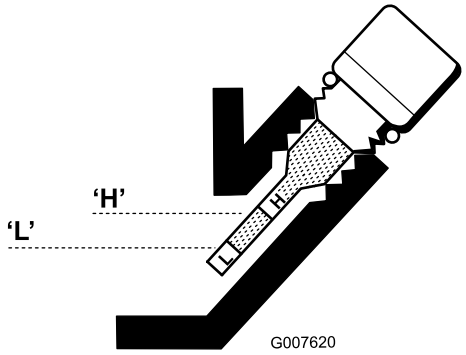


図 31

5. オイルゲージを元通りに取り付け、こぼれたオイルをふき取る。

エンジンオイルの交換

整備間隔: 使用開始後最初の 20 時間

50運転時間ごと

1. エンジンを数分間運転してオイルを温める。
2. 機体下にあるドレンプラグの下に廃油受けを置く（図 30）。ドレンプラグをゆるめる。
3. ハンドルを押さえてエンジンを後ろに傾け、残っているオイルを完全に抜く。
4. ドレンプラグを取り付け、所定のオイルを入れ、油量を確認する。「エンジンオイルの量の点検」を参照。
5. こぼれたオイルはふき取る。
6. 使用済みオイルは適切に処分する。適切なリサイクル処置を講ずる。

エアクリーナの整備

整備間隔: 50運転時間ごと

1. 点火プラグのコードが抜いてあるのを確認する。
2. エアクリーナカバーをエアクリーナ本体に固定している蝶ナットを取り、カバーを外す。カバーを丁寧に清掃する（図 32と図 33）。

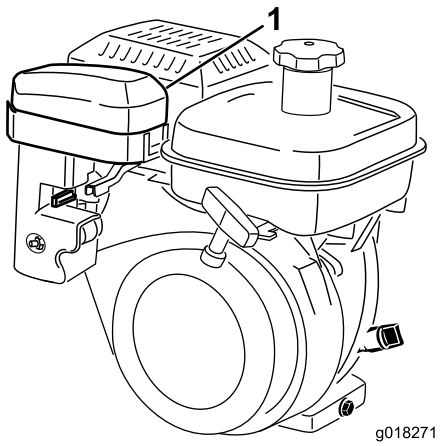


図 32

1. エアクリーナのカバー

3. スポンジを点検し、汚れていればペーパーエレメントから外す（図 33）。スポンジをきれいに洗う。
   A. スポンジを温水と液体洗剤で押し洗いする。絞るとスポンジが破れるので押し洗いで汚れを落とす。
   B. 洗い上がったら、タオルにはさんで水分を取る。タオルにはさんだ状態で軽く押して乾かす。ひねるとスポンジが破れるので注意する。
   C. きれいなエンジンオイルに十分ひたして引き上げる。スポンジを軽く押さえて余分なオイルを落とすとともにオイルを全体に行き渡らせる。スポンジはオイルで濡らしておく方が良い。

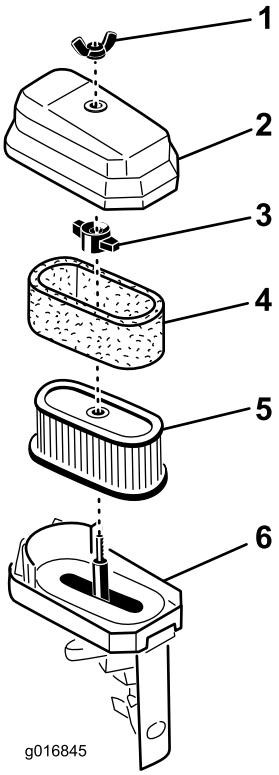


図 33

1. 蝶ナット
2. エアクリーナのカバー
3. 蝶ナット
4. スポンジ
5. ペーパーエレメント
6. エアクリーナのベース

4. スポンジの点検と同時に、ペーパーエレメントを点検する。必要に応じて交換する。

   注 ペーパーエレメントの清掃には圧縮空気を使用しないこと。

5. スポンジ、ペーパーエレメント、カバーを元通りに取り付ける。

   重要 エレメントを外したままでエンジンを運転しないこと。エンジンに大きな損傷が起きる場合があります。

点火プラグの整備

整備間隔: 100運転時間ごと

点火プラグはNGK BR 6HS又は同等品を使用します。正しいエアギャップは 0.6～0.7 mm です。

1. 点火プラグのコードをプラグから抜きとる（図 34）。

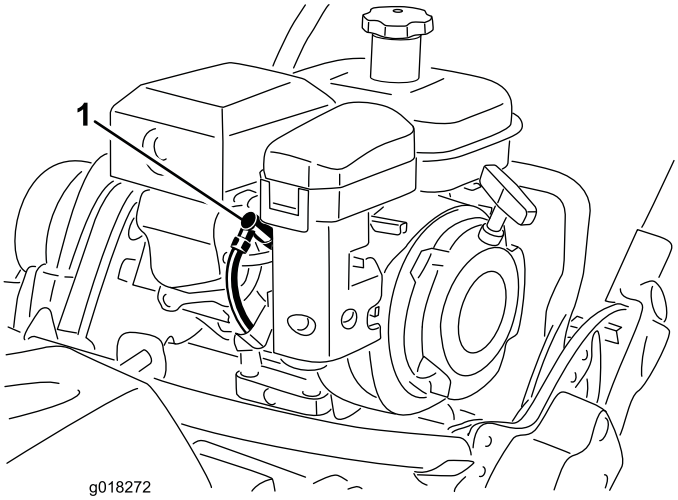


図 34

1. 点火コード

2. プラグの周囲を清掃し、シリンダヘッドからプラグを外す。

   重要 汚れその他の不具合のある点火プラグは交換してください。点火プラグにサンドブラストをかけたり、ナイフ状のもので削ったり、ワイヤブラシで清掃したりしないでください。破片がシリンダ内に落ちてエンジンを損傷します。

3. 正しいエアギャップ（0.6～0.7 mm）に調整する（図 35）。点火プラグをエンジンに取りつけて、23 Nm（2.35 kg.m）にトルク締めする。

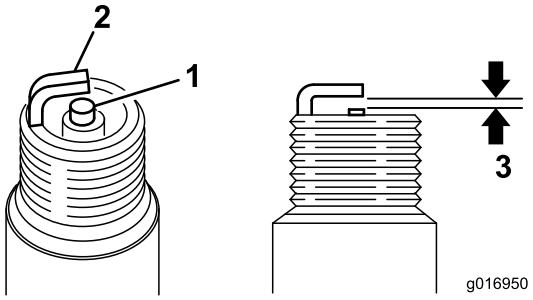


図 35

1. 中央の電極の碍子
2. 側部の電極
3. エアギャップ: 0.6～0.7 mm

燃料系統の整備

燃料カップとスクリーンの清掃

整備間隔: 使用開始後最初の 20 時間

100運転時間ごと/毎月 （いずれか早く到達した方）

1. 燃料バルブを閉じて、フィルタのボディから燃料カップをを外す（図 36）。

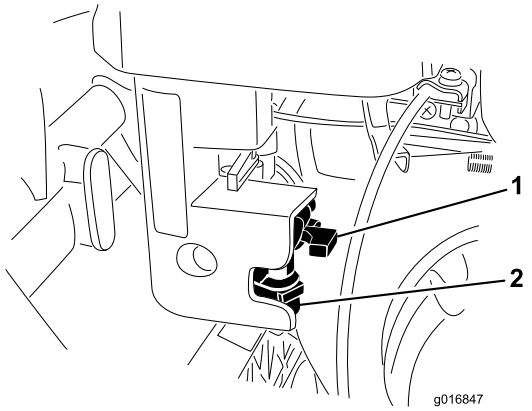


図 36

1. 燃料バルブ
2. 燃料カップ

2. 燃料カップをきれいなガソリンで洗浄し、元通りに取り付ける。
3. 燃料タンクのキャップを外す（図 37）。

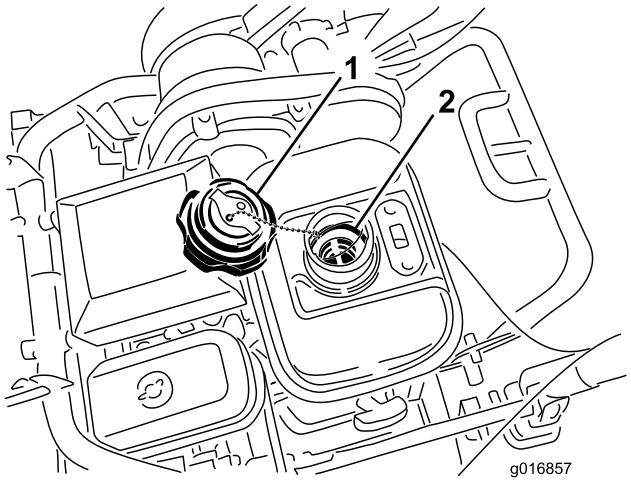


図 37

1. 燃料タンクのキャップ
2. 燃料タンクのスクリーン

4. 燃料タンクの内部からスクリーンを取り出す。
5. きれいなガソリンでスクリーンを洗浄し、元通りに取り付ける。
6. 燃料タンクのキャップを取りつける。

燃料ラインの交換

整備間隔: 1000運転時間ごと

1000運転時間ごとに燃料ラインを交換してください。ラインからの燃料漏れを発見した場合には直ちに交換してください。

電気系統の整備

走行インタロックスイッチの整備

調整や交換が必要な時には以下の要領で行います。

1. エンジンが停止していることを確認する。
2. コントロールパネルを外す。
3. 走行レバーを入れる。

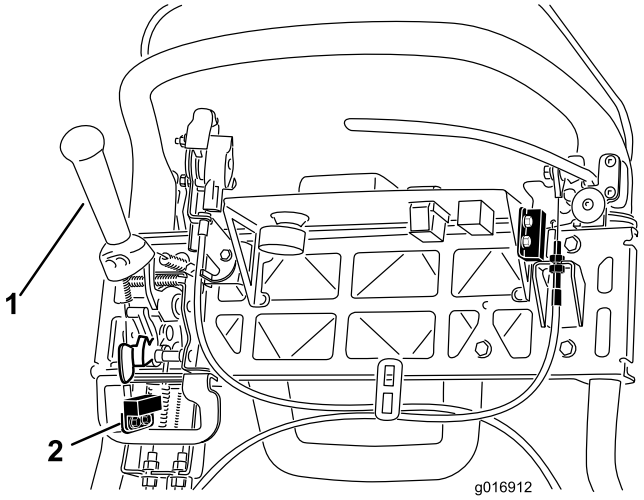


図 38

1. 走行レバー　　2. インタロックスイッチ

4. インタロックスイッチを固定しているねじをゆるめる（図 38）。
5. 走行レバーとインタロックスイッチとの間に厚さ 1.6 mmのすきまゲージをはさむ（図 38）。
6. スイッチを固定しているねじを締める。
7. 走行レバーを入れ、すき間を点検する。通常の使用範囲は、0.76-3.05 mmである。走行レバーを操作して、スイッチの導通が無くなることを確認する。必要に応じてスイッチを交換する。

ブレーキインタロックスイッチの整備

1. エンジンが停止していることを確認する。
2. コントロールパネルを外す。
3. 常用ブレーキのレバーを入れ、駐車ブレーキのラッチを掛ける。
4. インタロックスイッチを固定しているねじをゆるめる（図 39）。

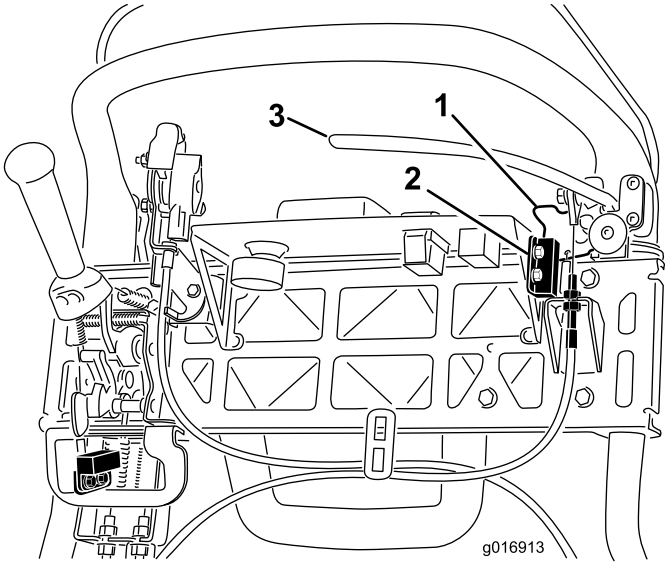


図 39

1. 駐車ブレーキのラッチ
2. インタロックスイッチ
3. 常用ブレーキレバー

5. 駐車ブレーキのラッチとインタロックスイッチとの間に厚さ 1.6 mmのすきまゲージをはさむ（図 39）。
6. スイッチを固定しているネジを締める。すきまの大きさを確認する。ラッチがスイッチに接触してはいけない。
7. ブレーキレバーを入れ、ラッチを回転させる。スイッチの導通が無いことを確認する。必要に応じてスイッチを交換する。

ブレーキの整備

常用／駐車ブレーキの調整

ブレーキ（常用・駐車兼用）がスリップするようになったらケーブルの調整が必要です。

1. ブレーキレバーをOFF 位置とする。
2. コントロールパネルを外す。
3. 走行ケーブルの張りを強くするには、上側ケーブルのジャムナットをゆるめて、下側ケーブルのジャムナット（図 40）を締め、156 N（15.8 kg）の力で駐車ブレーキのラッチが解除されるように調整する。ブレーキバンドが締まりっぱなしにならないよう注意すること。

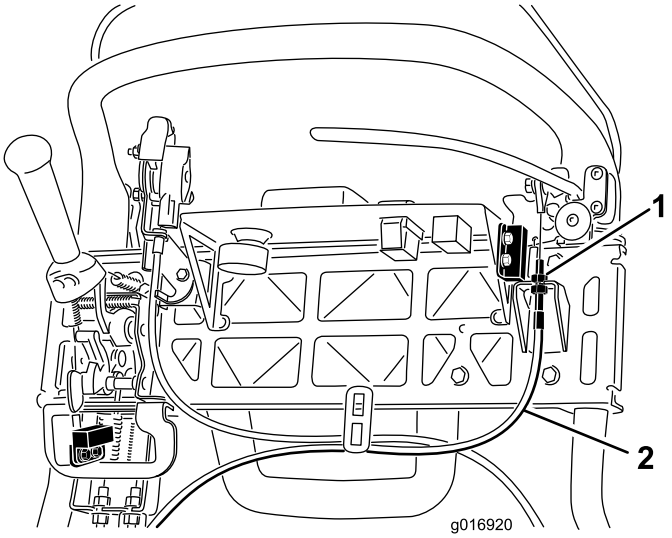


図 40

1. ジャムナット
2. 常用ブレーキのケーブル

ベルトの整備

リール駆動ベルトの点検

整備間隔： 1000運転時間ごと

機械を正しく動作させ、無用の磨耗を防止するために、リール駆動ベルトは正しく調整してください。また、頻繁に点検してください。

1. ベルトカバーを固定しているフランジボルトをゆるめてベルトカバーを外し、ベルトを露出させる(図 41)。

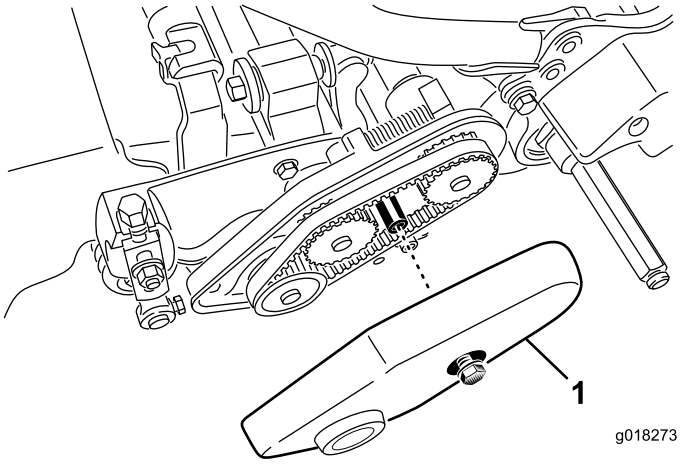


図 41

1. ベルトカバー

2. ベルトの張りの調整：
   A. ベアリングハウジング取り付けナットをゆるめる（図 42）。

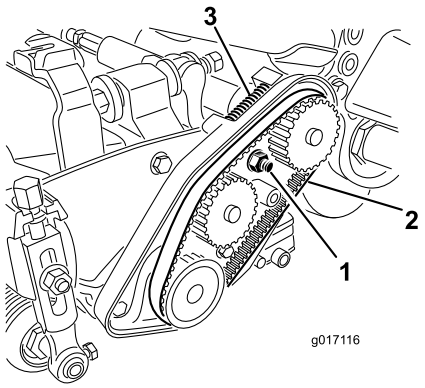


図 42

1. ベアリングハウジング取り付けナット
2. リール駆動ベルト
3. 圧縮スプリング

   B. 5/8インチ（16 mm）のトルクレンチでベアリングハウジングを回転させ、自由に動くことを確認する。
   C. ベルトケース内部や圧縮スプリングについているごみをきれいに取り除く（図 42）。
   D. 圧縮スプリングからベルトに適切な力が掛かっていることを確認する。
   E. ベアリングハウジング取り付けナットを締め付ける。
   F. ベルトカバーを取り付ける。

トランスミッションカバーのアクセス穴

クラッチへのアクセスが必要な場合には、トランスミッションの正面についているゴム製のプラグを外す（図 43）。

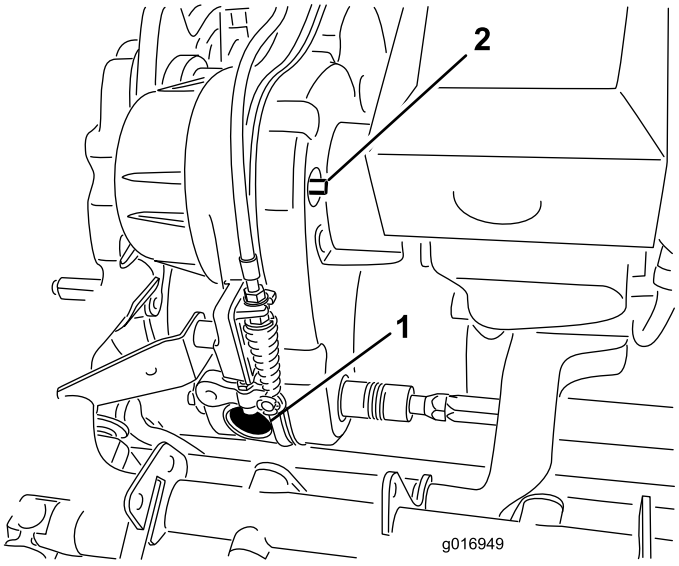


図 43

1. ゴム製のプラグ
2. 入・切シャフト

トランスミッションベルトのテンショナ

トランスミッションのベルトはスプリング付きのアイドラプーリで張りを出しています。ベルトの張りをなくしたい場合には、3/8 インチのレンチで入・切シャフト（図 43）を適当な位置まで回してください。シャフトを右に 1/4 回転させるとアイドラがベルトから外れてきます（図 44）。

注 トランスミッションカバーを外す前には、ベルトの張りをなくしておく必要があります。

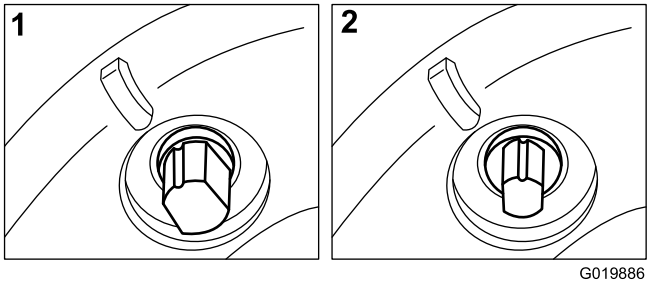


図 44

1. 入
2. 切

制御系統の整備

走行コントロールの調整

走行コントロールがつながらない、スリップするなどの症状が出るようになったら調整が必要です。

1. 走行コントロールを「解除」位置にセットする。
2. 走行コントロールケーブルの延長スプリング部分にたるみができていないか点検する（図 45）。たるみがある場合には、バルクヘッド（図 46））についているジャムナットを調整してたるみを取る（スプリングを伸ばさない）。

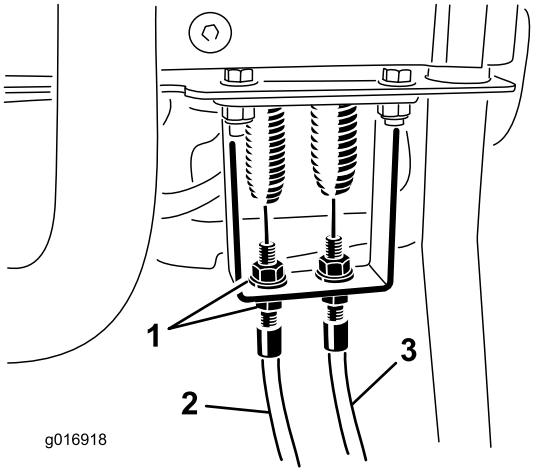


図 45

1. ジャムナット
2. 走行コントロールケーブル
3. リールコントロールケーブル

3. 走行コントロールがまだ滑る場合には、以下の作業をおこなう：
4. ベルクランクロッドのクレビスをベルクランクレバーに固定しているコッターピンとクレビスピンを外す。ベルクランクレバーからクレビスを外す（図 46）。

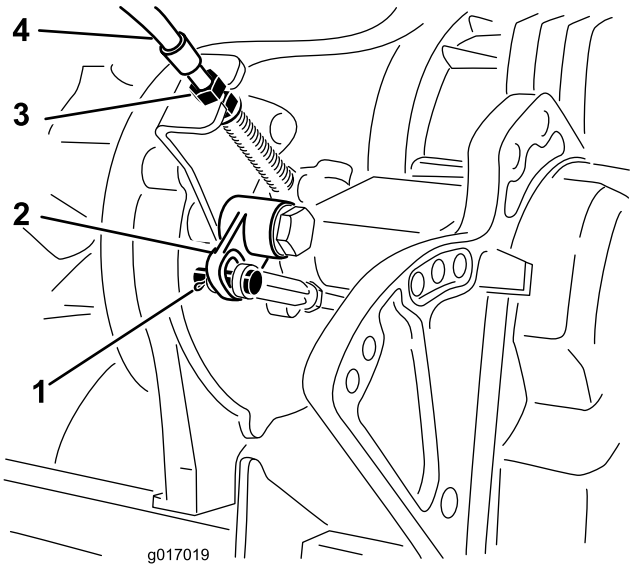


図 46

1. クレビスピンとコッターピン
2. ベルクランク
3. ジャムナット
4. 走行コントロールケーブル

5. ベルクランクロッドを、1〜1.5回転させて、ロッドの長さを1.5 mm大きくする。
6. 先ほど外したクレビスピンとコッターピンを使って、クレビスをベルクランクレバーにもう一度接続する。
7. トランスミッションのバルクヘッド（図 46）で、先ほどの調整に合わせてケーブルのジャムナットを調整してベルクランクへの距離を小さくする。
8. ケーブルの調整は、コントロールパネルのバルクヘッドのところで行い、ケーブルのジャムナットを回転させて、スプリングが伸びずにケーブルのたるみが完全になくなるように調整する（図 45）。
9. 調整を確認し、必要に応じて再調整する。

リールコントロールの調整

リールが回転しない、スリップするなどの症状が出るようになったら調整が必要です。

1. リールコントロールが解除状態であることを確認する。
2. トランスミッションのバルクヘッド部で、リールコントロールのケーブル（図 47）を行う；スプリングの長さが 70.6-72.4 mm になるように調整する。

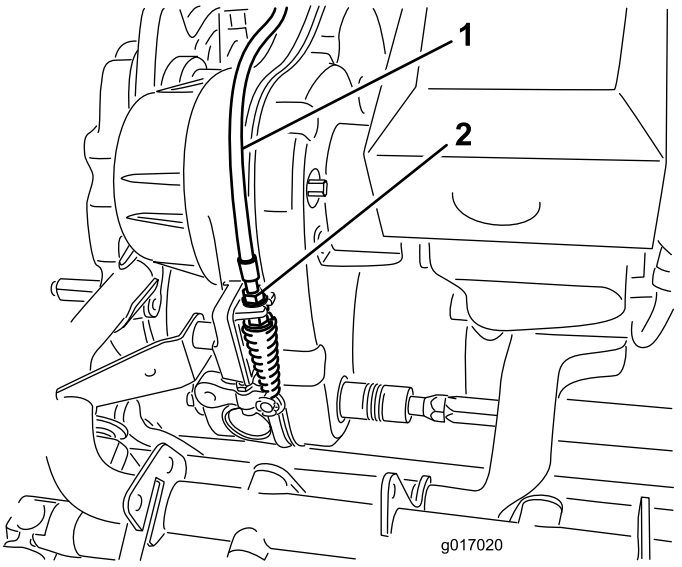


図 47

1. リールコントロールケーブル
2. ジャムナット

3. コントロールハンドルのバルクヘッド部で、リールコントロールケーブルをゆるめてケーブルにたるみを持たせる（図 45）。
4. コントロールハンドルのバルクヘッド部で、リールコントロールケーブルを締めていき、スプリングが伸びずにケーブルのたるみが完全になくなるように調整する。
5. 以下の手順で調整の確認を行う：
   - クラッチを解放した時に、リールクラッチの歯が外れること、またクラッチをつないだ時に歯が一番奥まで入り込まないことを確認する。

     注 トランスミッションの正面についているゴム製のプラグ（図 43）を外すと、クラッチの歯を確認することができます。

- リールとベッドナイフの接触をなくした状態で、リール停止動作から7秒以内にリールが停止することが必要。
- 分からないことがある場合には、代理店に連絡するか、サービスマニュアルを参照する。

保管

1. 機体各部に付着している泥や刈りかすをきれいに落とす。特にエンジンのシリンダ・ヘッドや冷却フィン部分やブロア・ハウジングを丁寧に清掃する。

   重要 機体は中性洗剤と水で洗うことができます。ただし高圧洗浄器は使用しないでください。また、シフトレバーのプレートやエンジン部に大量の水を掛けないように注意してください。

2. 長期間（30日間以上）にわたって保管する場合には燃料タンクのガソリンにスタビライザ／コンディショナを添加する。

   A. エンジンをかけて、コンディショナ入りのガソリンを各部に循環させる（5分間）。

   B. エンジンを停止してガソリンを抜き取る。またはガソリンがなくなるまで運転する。

   C. エンジンを再度始動する。チョークを引いて始動し自然停止まで運転する。チョークを引いて始動し、完全に始動できなくなるまでこれを続ける。

   D. 抜き取った燃料は地域の法律などに従って適切に処分する。適切なリサイクル処置を講ずる。

      注 コンディショナ入りのガソリンでも90日間以上の保存はしないでください。

3. 機体各部のゆるみを点検し、必要な締め付けや交換、修理を行う。破損個所や故障個所はすべて修理する。
4. 機体の塗装がはげていればタッチアップ修理をする。ペイントは代理店で入手することができる。
5. 汚れていない乾燥した場所で保管する。機体にはカバーを掛けておく。

Toro 製品の総合品質保証

限定保証

保証条件および保証製品

Toro 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品(「製品」と呼びます)の材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証はエアレータを除くすべての製品に適用されます(エアレータに関する保証については該当製品の保証書をご覧下さい)。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「製品」を納入した弊社代理店(ディストリビュータ又はディーラー) に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

952-888-8801 or 800-952-2740
E-mail: commercial.warrnty@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、*オペレーターズマニュアル*に記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません:

- Toroの純正交換部品以外の部品を使用したことまたはToroの純正部品以外のアクサセリや製品を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。これらの製品については、別途製品保証が適用される場合があります。
- 推奨された整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。*オペレーターズマニュアル* に記載されている弊社の推奨保守手順に従った適切な整備が行われていない場合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキ・バッドおよびライニング、クラッチ・ライニング、ブレード、リール、ローラおよびベアリング(シールドタイプ、グリス注入タイプ共)、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、ベアリング、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、この他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、チェック・バルブなどが含まれます。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない燃料、冷却液や潤滑剤、添加剤、肥料、水、薬剤の使用などが含まれます。
- エンジンのための適正な燃料(ガソリン、軽油、バイオディーゼルなど)を使用しなかったり、品質基準から外れた燃料を使用したために発生した不具合。
- 通常の使用に伴う運転音や振動、汚れや傷、劣化。
- 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類(「部品」)は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって取り付けられた部品は、この製品保証により保証期間終了まで保証され、取り外された部品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。弊社が保証修理のために再製造した部品を使用する場合があります。

ディープサイクルバッテリーおよびリチウムイオンバッテリーの保証:

ディープサイクル・バッテリーやリチウムイオン・バッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量(kWh)が決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。 バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。本製品の保証期間中に、上記のような通常損耗によってオーナーの負担によるバッテリー交換の必要性がでてくることは十分に考えられます。
注:(リチウムイオンバッテリーについて):リチウムイオンバッテリーには、その部品の性質上、使用開始後 3-5 年についてのみ保証が適用される部品があり、その保証は期間割保証(補償額逓減方式)となります。さらに詳しい情報については、*オペレーターズマニュアル* をご覧ください。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン関係の保証について:

米国においては環境保護局(EPA)やカリフォルニア州法(CARB)で定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、製品に同梱またはエンジンメーカーからの書類に同梱されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧下さい。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店(ディストリビュータまたはディーラ)へおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。